

14.5

14.5-73

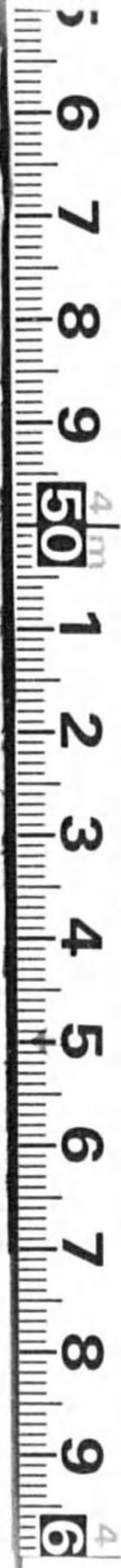


3

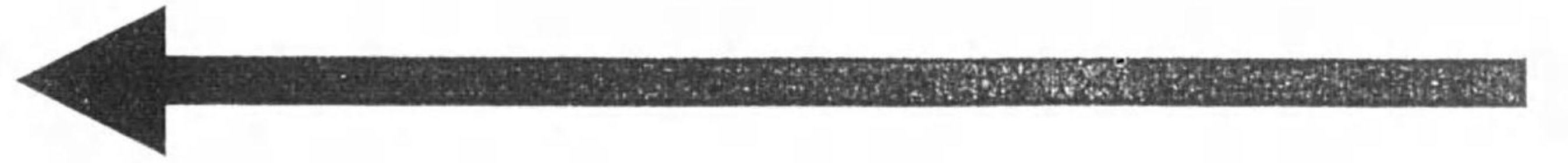
天然紀念物調查報告

植物之部 第二十輯

文 部 省



始



天然紀念物調查報告

植物之部 第二十輯

14.5
~~40~~
14.5
73イ



78W51006

目次

宮城縣・石川縣・岐阜縣・鳥取縣・島根縣・廣島縣・山口縣下の植物に關するもの
中井猛之進

宮城縣

- 稱名寺のシヒノキ 一
- 朝鮮梅 二
- 渡瀬村の水場 四
- 小原のクワントウマユミ 七
- 小原のコツブガヤ 八
- 小原のヒダリマキガヤ 八
- 小原のヨコグラノキ 九
- 小原のサイカチ 〇

石川縣

- 堂形のシヒノキ 一

松月寺の大櫻……………一二

神明のケヤキ……………一四

岩根社の大ケヤキ……………一四

八幡神社の大スギ……………一五

犬ノ澤の金明竹……………一六

岐阜縣

大山の大スギ……………一七

白山神社のハナノキ及ヒトツバタゴ並にヒトツバタゴ自生地……………一八

鳥取縣

宇谷の連理根上り松及根上り松群……………二〇

島根縣

大元神社陞の樟……………二二

竹崎の石割樺……………二四

竹崎のカツラ……………二五

稲田神社御旅所の竹……………二六

船通山の樹木類……………二七

サンバガタの松……………三二

關の五本松……………三三

松江城山のクロガネモチ……………三四

廣島縣

小松寺の松……………三六

法宣寺の天蓋松……………三七

千年村の弓掛松……………三八

山口縣

龍藏寺のイテフ……………三九

圖版目次

第一圖版	稱名寺のシヒ	二—三
第二圖版	朝鮮梅	二—三
第三圖版	小原のクワントウマユミ	六—七
第四圖版	小原のコツブガヤ	六—七
第五圖版	小原のヒダリマキガヤ	八—九
第六圖版	小原のヨコグラノキ	八—九
第七圖版	小原のサイカチ	一〇—一一
第八圖版	堂形のシヒノキ(右側)	一〇—一一
第九圖版	堂形のシヒノキ(左側)	一一—一二
第十圖版	松月寺の大櫻	一二—一三
第十一圖版	満開の松月櫻	一四—一五
第十二圖版	神明のケヤキ	一四—一五
第十三圖版	岩根社の大ケヤキ	一四—一五
第十四圖版	八幡神社の大スギ	一四—一五
第十五圖版	犬ノ澤の金明竹	一六—一七
第十六圖版	大山のスギ	一六—一七

第十七圖版	白山神社のハナノキ	一八—一九
第十八圖版	白山神社のヒトツバタゴ	一八—一九
第十九圖版	宇谷の連理根上り松	二〇—二一
第二十圖版	宇谷の根上り松群	二〇—二一
第二十一圖版	大元神社趾の樟(全形)	二二—二三
第二十二圖版	大元神社趾の樟(基部)	二二—二三
第二十三圖版	竹崎の石割樺	二四—二五
第二十四圖版	竹崎のカツラ	二四—二五
第二十五圖版	サンバガタの松	三二—三三
第二十六圖版	關の五本松	三二—三三
第二十七圖版	小松寺の松	三六—三七
第二十八圖版	法宜寺の天蓋松	三六—三七
第二十九圖版	千年村の弓掛松	三八—三九
第三十圖版	龍藏寺のイテフ	三八—三九

天然紀念物調査報告 植物之部 第二十輯

宮城縣石川縣・岐阜縣・鳥取縣・島根縣・廣島縣・山口縣下の植物に關するもの

TAKENOSIN NAKAI: Natural Monuments of Plants in Miyagi and six other Prefectures, which were newly appointed, or are to be appointed by the Minister of Education.

史蹟名勝天然紀念物調査會委員

理學博士 中井猛之進

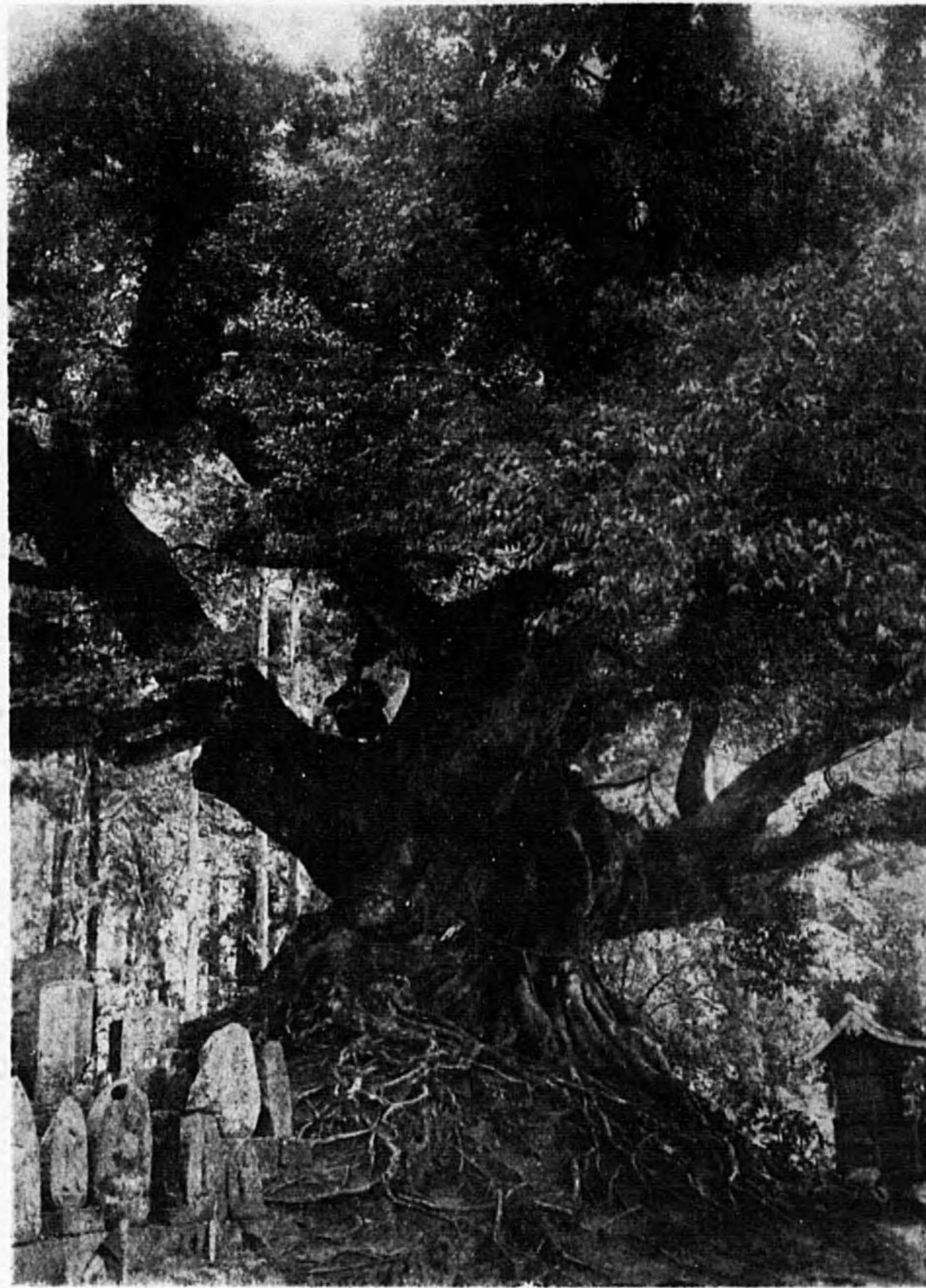
宮城縣

稱名寺のシヒノキ

所在 宮城縣亶理郡亶理町稱名寺境内

常盤線亶理驛下車町を縦斷して徒歩約二十町にして稱名寺に到る。丘の上に建つ日蓮宗の寺なり。シヒノキは本堂に向つて左側の小高き所にあり。根は洗はれて八方に擴がり見事なるも、根廻を測るには不適當なり。

宮城縣 稱名寺のシヒノキ



稱明寺のシビ

A big tree of *C. stanopsis cuspidata* in the precinct of Syōmyōzi temple Miyagi prefecture.

宮城縣 稱名寺のシビノキ

樹高 一二米

幹圍 地上一六米の所が最も小さく縊れ居るも尙ほ周圍七八五米あり。枝張と主枝の太さは

西南へ一一米のものは分枝點より約六〇厘の所の周圍三三五米あり。

東北へ延びたるは長さ一〇米にして分枝點より約一米の所の周圍二九米あり。

北へ延びたるものは長さ九五米にして分枝點より約一米の所の周圍一六米あり。

東南に延びたるものは昭和十六年十月六七兩日の暴風に折損し長さ六五米を殘せども

分枝點より約一米の所の周圍二八米あり。

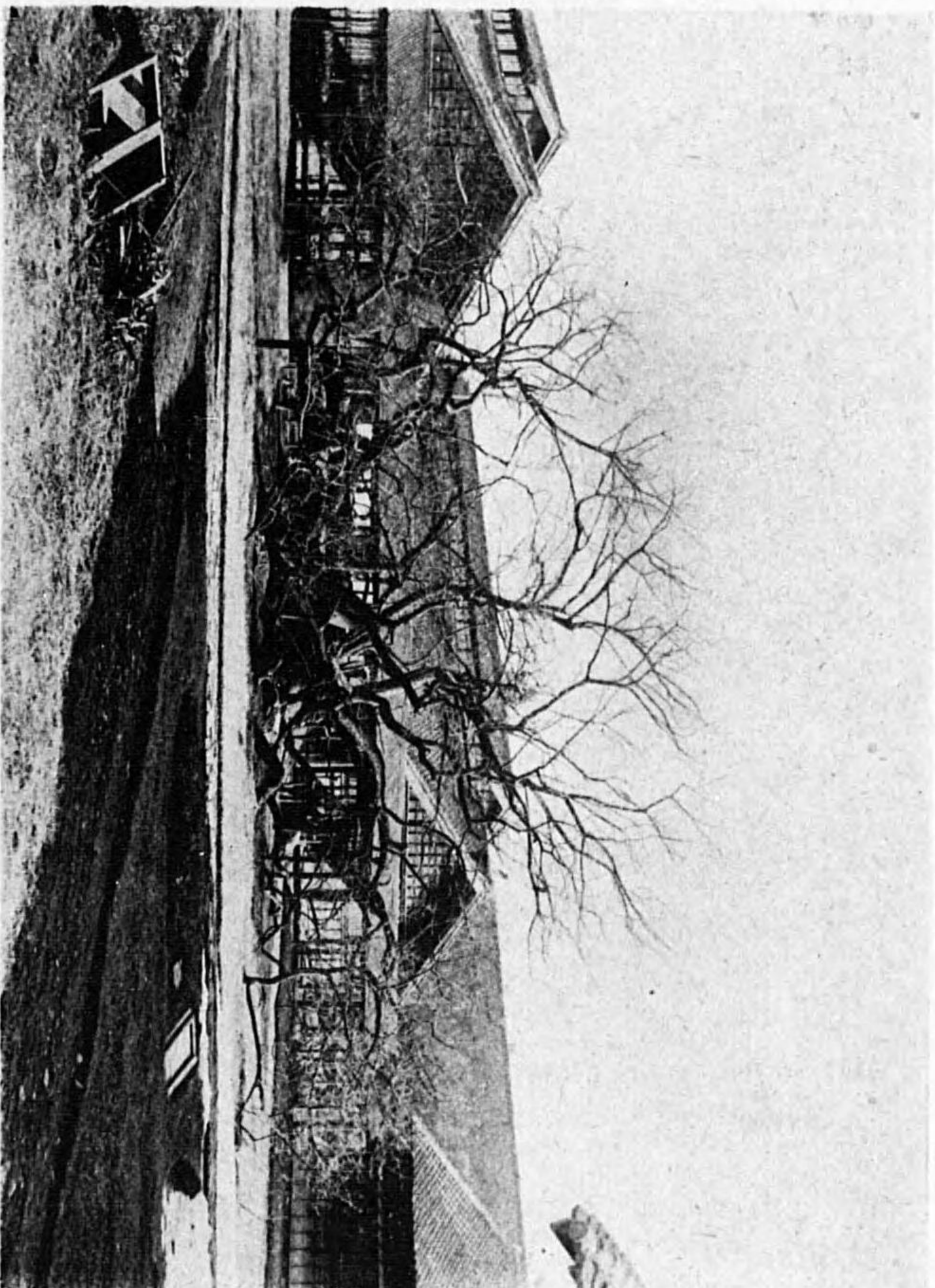
推定樹齡 五百五十年。

シビノキは本來此地方に自生なきもの故、南方の何地かより移植したる事は疑ふ餘地なし。稱名寺の創建は昭和十七年より溯りて四百二十六年前なる故、本樹は寺の創建以前に此地に移植されありしものと認む。

(昭和十六年十月二十八日調査)

後記 稱名寺のシビノキは昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

朝鮮梅



朝鮮梅
Prunus munu var. *prostrata* at Sendai, Miyagi prefecture.

所在 宮城縣仙臺市行人塚宮城刑務所構内

通稱朝鮮梅として知らるる此梅樹は臥龍梅

Prunus munu Siebold & Zuccarini var. *prostrata*

NAKAIの巨樹なり。

文祿二年伊達政宗征韓役に赴きて此梅を得、鉢植にして徳川氏の監察松平友三郎に托して持歸らしめ、之を少林城苑内に植えしめしと傳ふ。現在の梅は側に建てある朝鮮梅碑（第一圖版中
て左に見ゆるもの、明治三十三年五月三日建設）に刻まれある碑文に據れば明治三十三年より溯りて百數十年前、監苑福井文大夫が親木の次第に衰へ行くを見て接木を作りしものがよく繁茂し、後二株となりし故其中の一株を現在地に移したるが現在の樹なりとの事なり。故に此臥龍梅は政宗の送りしもの二代目に當り約二百年の樹齡を保てるもの如し。樹高約九米、枝は擴がりて約百坪の地積を占め、東西に二〇米、南北に約二三米程展開し、根元の周圍一五二米あり。親木を賦せる政宗の詩として傳ふるものが碑面に刻されあり。

絶海行軍歸國日 鐵衣袖裏裹芳芽

風流千古餘清操 幾度閑看異域花

杉浦重剛氏の此梅につき御進講申上し草案には「幾度閑看異域花」と閑が閒に代へられたり。由來朝鮮は我國が支那の文物を輸入したる經路に當り、假令現時の朝鮮には同種類の臥龍梅はなくとも、征韓役の頃に此種の臥龍梅が政宗の赴きし南鮮にありて彼の目に觸れ遂にそれを持來れりと推定するも可なるべし。此梅は遅咲、白單瓣の大輪にして年々よく結實す。

蓋し由緒正しく又美事に生育せる臥龍梅の逸品と謂ふべし。

(昭和十六年十月二十五日調査)

後記 朝鮮梅は昭和十七年九月天然紀念物として指定せられたり。

渡瀬村の水場

所在 宮城縣刈田郡渡瀬村

天然紀念物として既に指定しある刈田郡小原村材木岩より行く事數町にして、道の向て左方の山麓斜面に田地を隔てて風穴數個あり。夏期に尙ほ殘氷ある故住民は氷場と呼ぶ。此所には氷と穴より吹き出す冷風とに保護され、此所よりも數百米以上高き地にあるべき高山植物例令ばミヤマメシダ、アスヒカヅラ、マルバメギ、ベニバナイチヤクサウ、ムラサキヤシホ、ミヤマコメススキ等が生じ居りて、アカマツ、コナラ、アブラチヤン、ヤマツツジ、アヲダモ、サラシナシヨウマ等の如き低地植物と混生し奇觀を呈す。予が到りし時は既に霜白く置き、紅葉したる樹々は半ば葉を篩ひ居りしも大凡次の如き植物を目撃採集し得たり。

Osmunda cinnamomea L. var. *asiatica* FERNALD ヤマドリゼンマイ
Athyrium melanolepis CHRIST ミヤマメシダ
Plagiopharis polypodioides FEE ミヤマワラビ

Woodsia polystichoides EATON メンゼンダ
Lycopodium complanatum L. var. *dilatatum* NAKAI アスヒカヅラ
Pinus densiflora SEEBOLD & ZUCCARINI アカマツ
Pinus densiflora var. *megalastrobus* NAKAI 大實ノアカマン
Salix Bako KIMURA ハッコヤナギ
Quercus crispula BLUME ヒヅナラ
Quercus serrata THUNBERG コナラ
Dianthus superbus L. エゾカハラナデシロ
Cimicifuga ramosa NAKAI (*C. simplex* WORMSK. var. *ramosa* MAX.) サラシナシヨウマ
Thalictrum Thunbergii DC. var. *tenipes* NAKAI ウンシカラマツ
Berberis amurensis RUPRECHT var. *brevifolia* T. AKAI マルバメギ
Parthenocain praecox NAKAI アブラチヤン
Sedum Aizoon T. キリンサウ
Astilbe odontophylla MIQUEL トリアシシヨウマ
Spiraea ulmifolia SCOPOLI アヒヅシモツケ
Acer Sieboldianum MIQUEL var. *microphyllum* NAKAI コンウチンカンドラ
Acer Tschonoskii MAXIMOWICZ ミネカンドラ

第三圖版

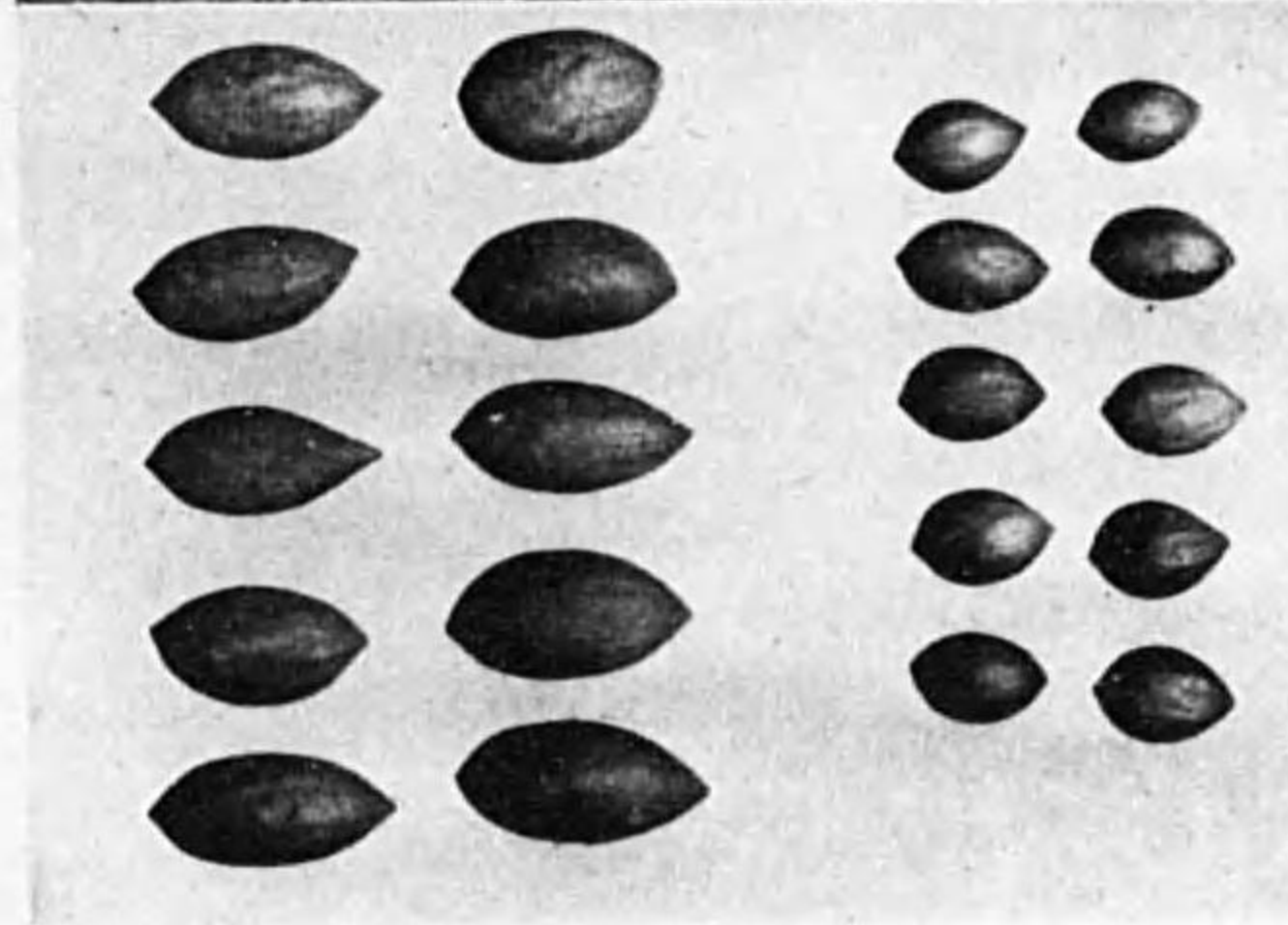


小原のクワントウマユミ

A big and old tree of *Eucrymus Vidalii* at Ohara, Miyagi prefecture

宮城縣 渡瀬村の米藪

- | | |
|-------------------------------------------------------------|------------|
| <i>Helicoglia japonica</i> WILDENOW | ハナイカダ |
| <i>Pimpinella calycina</i> MAXIMOWICZ | カノツメサウ |
| <i>Pyr-la uvarnata</i> FISCHER | ベニバナイチヤクサウ |
| <i>Hageria japonica</i> NAKAI | アツシバ |
| <i>Rhododendron Albrechtii</i> MAXIMOWICZ | ムラサキヤシホ |
| <i>Rhododendron Kamuyeri</i> PLANCHON | ヤマムツジ |
| <i>Rh. dodonsoni scinbarbatum</i> MAXIMOWICZ | ハイクワツジ |
| <i>Tripetalia paniculata</i> SEBOLD & ZUCCARINI | ホツジ |
| <i>Tritemodon campanulatum</i> F. MAEKAWA | サラサドウダン |
| <i>Tritemodon subsessile</i> F. MAEKAWA | アブラツジ |
| <i>Vaccinium Smallii</i> A. GRAY | オホベスノキ |
| <i>Fraxinus Sieboldiana</i> BLUME var. <i>styrata</i> NAKAI | アヲタゴ |
| <i>Scutellaria dentata</i> LEVELLE | エゾタツナミサウ |
| <i>Pedicularis resupinata</i> L. | シホガマギク |
| <i>Lonicera tenuipes</i> NAKAI | シヤマヘウタンボク |
| <i>Saussurea brachycephala</i> FRANCHET | イハテヒゴタヒ |
| <i>Solidago japonica</i> KITAMURA | アキノキリンサウ |



小原のコツブガヤ、下は果核(×1/2)

A big tree of *Torreya iyaensis* at Miyagi prefecture, and its kernels (ca. 1/2)

Calamagrostis sachalinensis FR. SCHMIDT シロノガリヤス
Dyschampsia caespitosa P. BEAUVOIS ミヤマコメススキ
Hosta Sieboldiana ENGLER オホバギボウシ
Lilium nudicoloides A. GRAY クルマユリ

海拔僅に三百米の此地に低地高山兩植物を混生し居るは植物生態學上興味ある一資料と謂ふべし。

(昭和十六年十二月二十八日調査)

小原のクワントウマユミ

所在 宮城縣刈田郡小原村字鹽倉
 此クワントウマユミ *Euonymus Vitalin* FRANCHET & SAVATIER は小原村字鹽倉十七番地高橋秀一所有地内にありて俗に鹽倉觀音堂といふ小祠の向て右側にあり。樹高一三米、根元周圍二米、地上一五米の幹圍一九五米あり、推定樹齡一八〇年にして、クワントウマユミとしては稀有の巨樹なるは勿論、少くも筆者が今日迄に目撃せる最大最高のものなり。

(昭和十六年十月二十八日調査)

後記 小原のクワントウマユミは昭和十七年七月天然紀念物として指定せられたり。

宮城縣 小原のクワントウマユミ

小原のコツブガヤ

所在 宮城縣刈田郡小原村字御假屋私有地内

此コツブガヤ *Torreya ignensis* DOI & MORIKAWA は丘の斜面に一本あり。樹高三〇米、根元周圍三・二米、地上一・五米の所の幹圍二・六米、地上三米にして始めて分枝す。推定樹齡二五〇年、樹勢旺盛にして從來知れ居るコツブガヤの最大の巨樹なり。

(昭和十六年十月二十八日調査)

後記 小原のコツブガヤは昭和十八年二月天然紀念物として指定せられたり。

小原のヒダリマキガヤ

所在 宮城縣刈田郡小原村字湯澤神前山林内

此ヒダリマキガヤ *Torreya macrosperma* MIYOSHI (*Torreya Sargentii* HU & CHUN, *Torreya grandis* FORTUNE var. *Sargentii* HU & CHUN) は同村湯澤の國民學校分教場の裏にある低き堤上にカヤノキ *Torreya nucifera* SEBOLD & ZUCCARINI と並びて立ち、樹皮は著しく左旋し、枝は垂れ、葉型は大きく、カヤノキとは一見して區別し得べし。樹高一・八米、根元周圍二・七五米、地上一・五の所の幹圍

第五圖版



小原のヒダリマキガヤ
Torreya macrosperma of Ohara, Miyagi prefecture.



小原のヨコグラノキ

Wild growth of *Berchemiella berchemiaefolia* at Ohara, Miyagi prefecture.

二〇五米、推定樹齡一五〇年なり。既に天然紀念物として指定しある滋賀縣蒲生郡西大路村犬字熊野にある初發見のヒダリマキガヤは、樹高に於ては本樹と伯仲すれども、目通幹圍は一六米にして本樹よりも細し。加之ヒダリマキガヤは三好博士が新種として發表後、中支那安徽省にて發見され、著しく西方に其分布區域が擴大されしも、未だ關東以北には發見されざりし故、本樹はヒダリマキガヤの分布上よりも特筆に値す。本樹の最初の發見者たる小原村の齋藤四郎治氏の測定に據れば、果核の最大のもの長き四二七浬、幅一・六六浬あり。最小のもの雖も長き三二八浬、幅一二四浬あり。

(昭和十六年十月二十八日調査)

後記 小原の左卷榧は昭和十七年十月天然紀念物として指定せられたり。

小原のヨコグラノキ

所在 宮城縣刈田郡小原村字上臺、山林内

ヨコグラノキ *Berchemiella berchemiaefolia* NAKAI は我國特産の一屬一種のクロウメモドキ科植物にして、始め高知縣横倉山にて發見され、次で伊豫、美作、隱岐等にも見出され、又朝鮮忠清北道俗離山にて發見され、居りしが、其後小原村の齋藤四郎治氏が之を小原村に發見するに及んで、其分布が意外に北に偏し居る事を知り得たり。小原村にありては天然紀念物材木岩の對

宮城縣 小原のヨコグラノキ

岸の崖上に數本あり。又渡瀬村の發電所に通ずるトンネル附近にも三本あり。最大のは高さ五米、幹は根元に近く周圍二〇厘米許あり。樹膚はアカメガシハの膚に酷似し、紅色の若枝と裏白の葉と紅色後黒化する果實とは優雅の感を與ふ。小原村は蓋しヨコグラノキ分布の北限地なるべし。

(昭和十六年十月二十八日調査)

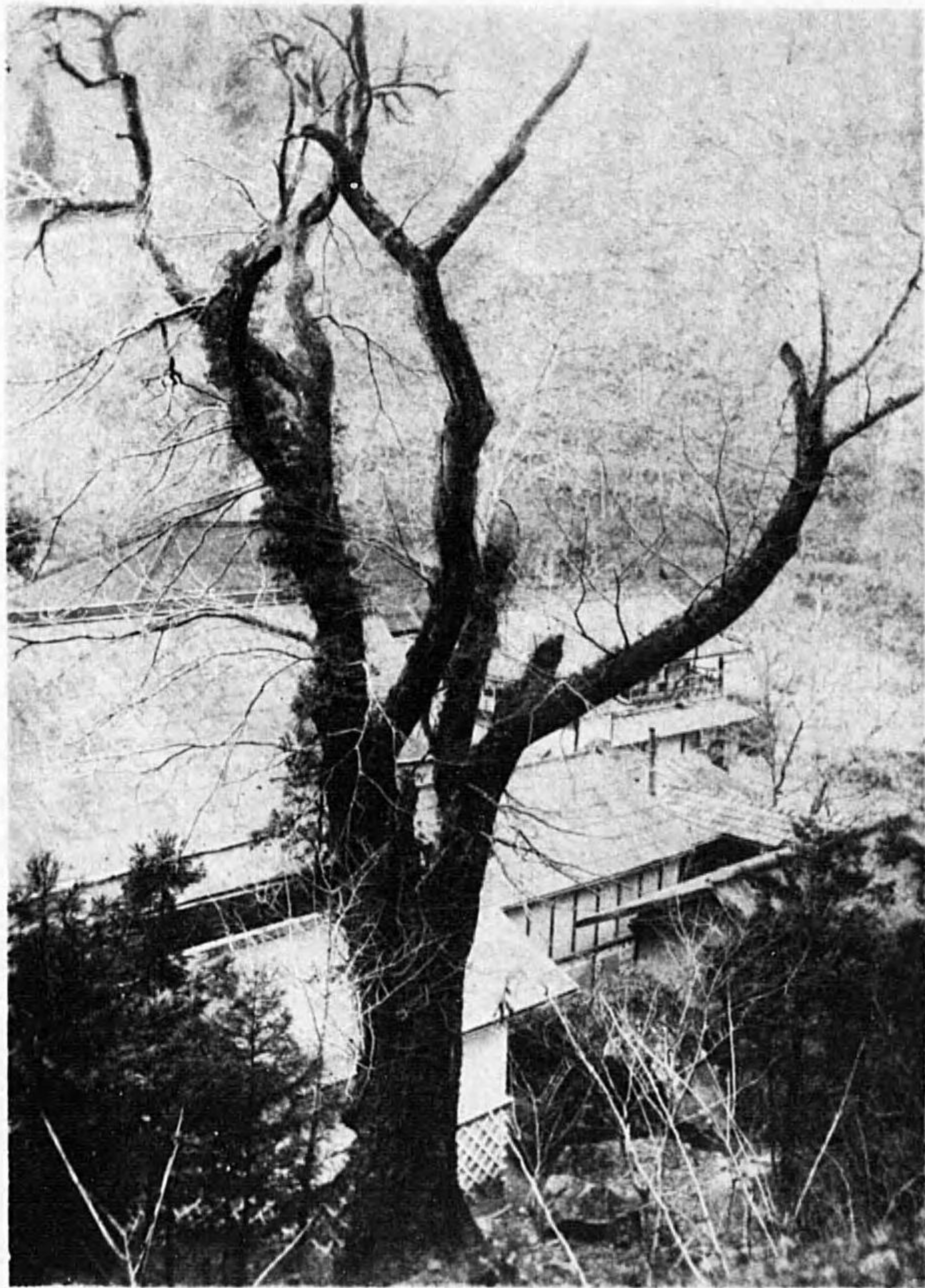
後記 小原のヨコグラノキは「ヨコグラノキ北限地帯」としては昭和十七年十月天然紀念物として指定せられたり。

小原のサイカチ

所在 宮城縣刈田郡小原村字湯元、私有地内

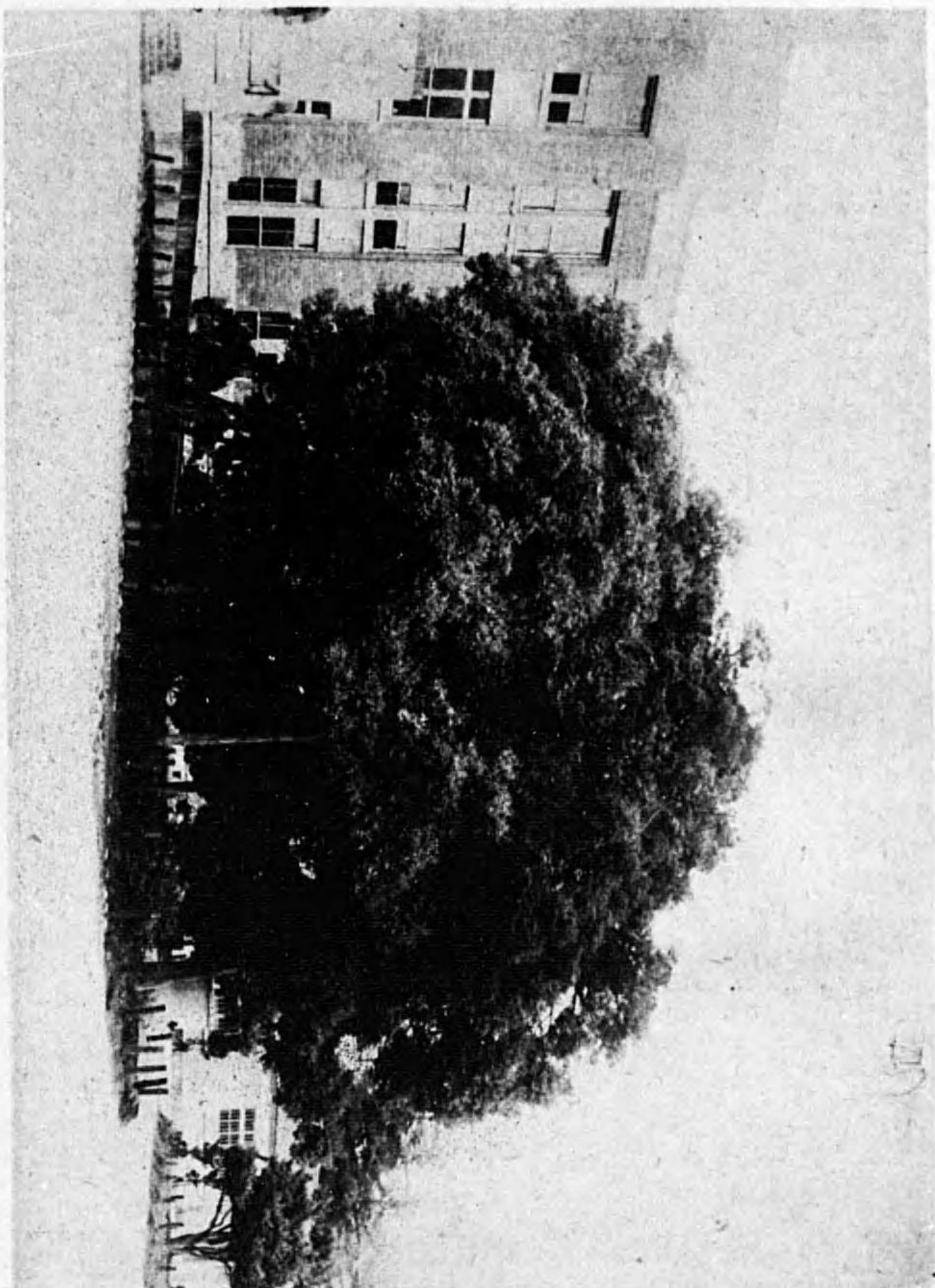
此サイカチ *Gleditsia horrida* (MIGUEL) SCHNEIDER (*Fagara horrida* THUNBERG; *Zanthoxylum horridum* DC.; *Gleditschia japonica* MIGUEL; *Cassipouinoides japonicum* O. KUNTZE; *Gleditschia horrida* (THUNBERG) MAKINO, non *Gleditschia horrida* hortul. ex WILDENOW) は雄本にして縣道より温泉旅館「づみや」(當主を四體(體助といふ)) に下る坂道の下方宿の入口に近くあり。小原村の天然紀念物の調査を終り仙臺への歸途バスを待つ中試に其大きさを測りて其意外に巨樹なる事を發見せり。樹高二〇米、根元周圍六・三五米、地上一・五米の幹圍四五米、推定樹齡四〇〇年にしてサイカチとしては稀有の

第七圖版



小原のサイカチ

A big tree of *Gleditsia horrida* at Ohara, Miyagi prefecture.



堂形のシヒノキ(向つて右側のもの)
A big tree of *Castanopsis cuspidata*, at Kanazawa, Ishikawa Prefecture.

大木なり。

(昭和十六年十月二十九日調査)

後記 小原のサイカチは昭和十七年七月天然紀念物として指定せられたり。

石川縣

堂形のシヒノキ

所在 石川縣金澤市廣坂通、石川縣廳玄關前

此シヒノキ *Castanopsis cuspidata* SCHOTTKY (*Quercus cuspidata* THUNBERG; *Pasania cuspidata* OERSTEDT; *Castanea Fauriei* LEVEILLE & VANIOT; *Lithocarpus cuspidata* NAKAI; *Synacrys cuspidata* KOIDZUMI; *Pasaniopsis cuspidata* KUDO; *Stipa cuspidata* MAKINO) は石川縣廳の玄關前左右に一本宛あり。

(一) 向つて左側のもの

樹高一二・二米、根廻一二米、地上一・三米の幹圍七・三八米、地上一・三米乃至二米の間に四本の枝を出し、中央の本幹は枯れたれども横より二本の太き枝を出す。本幹は南と東北とに生残る部分あり。北側に高さ一・五米の所にて二本に岐れたる太き枝あり。枝張は東へ七・八八米、西へ六・七六米、南へ八・三三米、北へ六・九米なり。

(二) 向つて右側のもの

樹高一三米、根廻一二二米、本幹は地上一・三米の所にて幹圍五・二米あり。中空にして西北側に生残り上はよく茂る。根元より七本の新幹を生じ、南へ出でしものは四本に分岐し、又東へ出でしものは三本に岐れ、東北、東、東南に向ふ。枝張は東へ九・八二米、西へ六・七六米、南へ八・五米、北へ八・七三米あり。

樹齡は左右何れも三百年程度のものなり、シヒノキの地方的巨樹といふべし。

(昭和十七年四月二十八日調査)

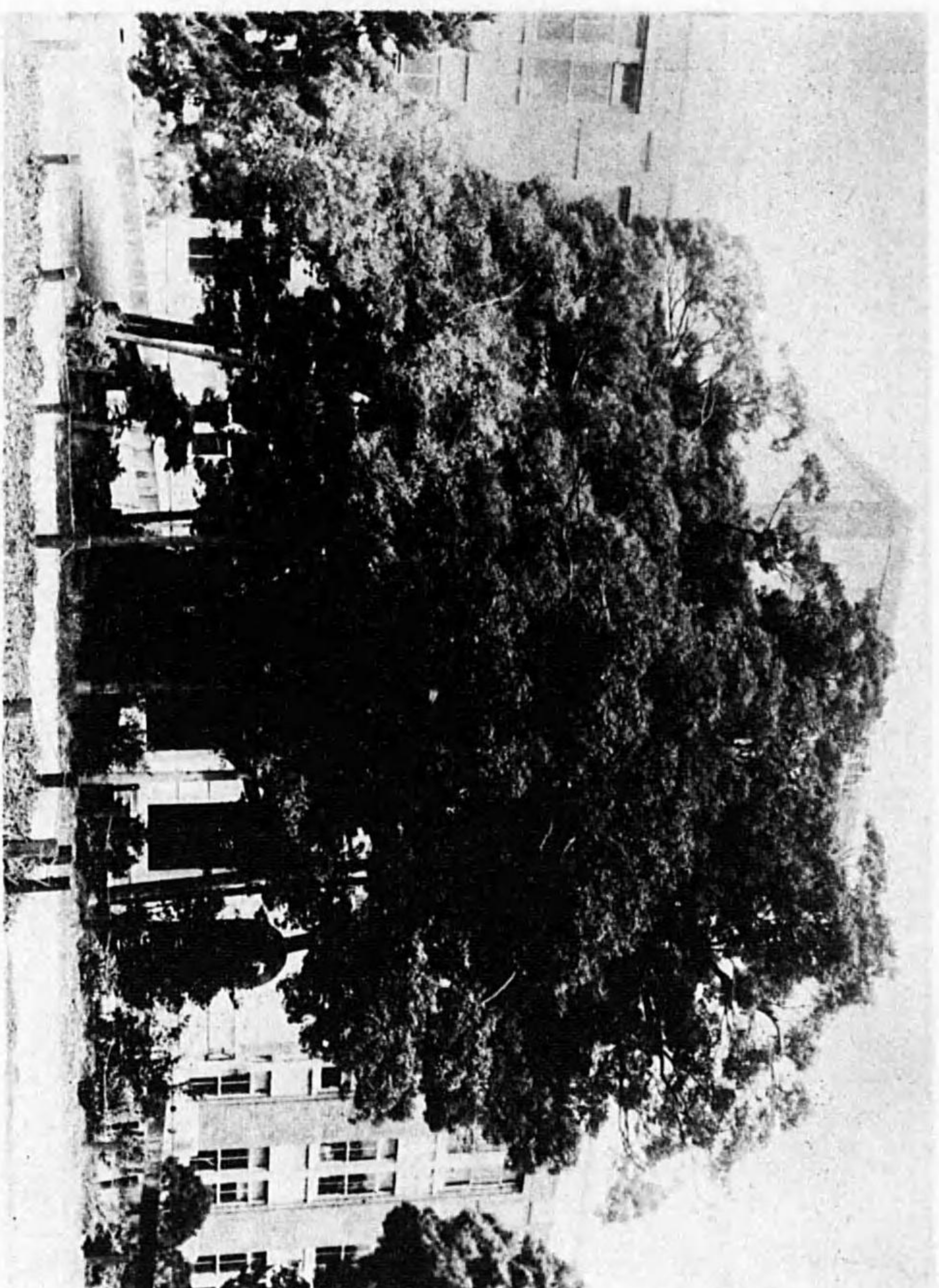
後記 堂形のシヒノキは昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

松月寺の大櫻

所在 石川県金澤市野田寺町四丁目松月寺境内

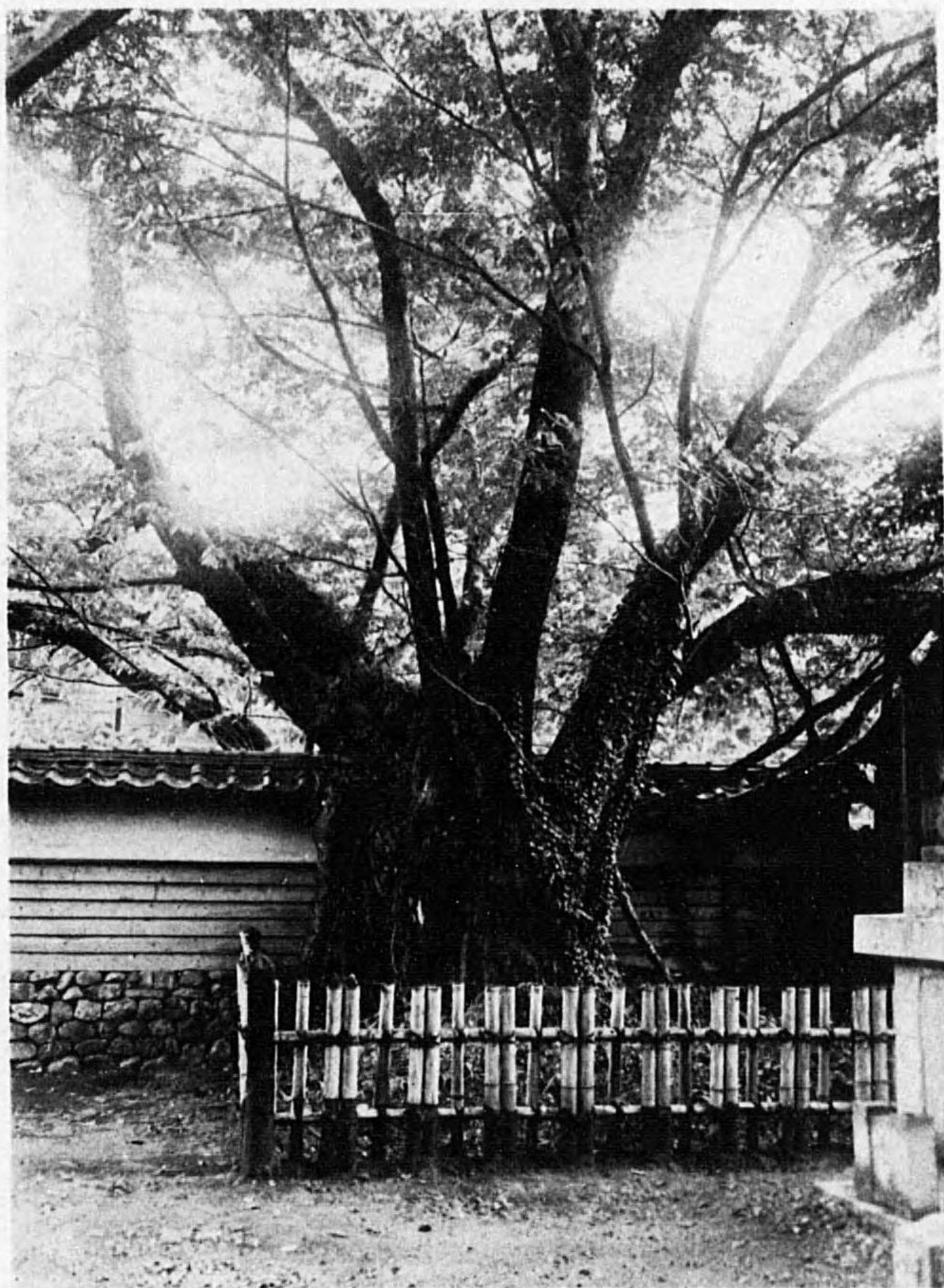
此サクラは松月櫻 *Prunus munitilis* MIYOSHI var. *magnifica* NAKAI¹⁾ と新稱すべきヤマザクラ系の一品にして、寺の前通に面する土塀に接し、境内の東隅に本堂より約二四米の距離にあり。本幹は既に完全に枯死し、根元より發生せる大小十數本の新幹より下せる根が本幹の腐朽部を支へて一見本幹と見ゆる一塊をなす。樹高一五米、舊本幹部の塊は地上一五米の所にて周圍七六二米あり。一部は土塀を貫き測定困難なり。土塀を貫きしもの並に土塀を越す枝は

第九圖版



堂形のシヒノキ (向つて左側のもの)

A big tree of *Castanopsis cuspidata*, at Kanazawa, Ishikawa Prefecture.



松月寺の大櫻

A big tree of *Prunus mutabilis* var. *magnifica*, in the precinct of Syôgetuzi temple, Isikawa prefecture.

前の電車通の上に出でて之を覆ふ。枝張は東西二〇米、南北一七六米なり。ヤマザクラの一變種にして葉は廣濶赤芽花時葉を伴ひ、花は繖房狀花梗と小花梗とに毛なく、花瓣は白地に微紅色を帯び、花徑四—五五種あり。萼片は反り、花柱に毛なし。

松月寺にある古文書に據れば、慶安元年加賀國小松城主小松利常が此櫻を松月寺住職至岸に與へ住職が現地に移植せり、舊藩時代には此櫻を尊重し藩主の行列さへ此櫻樹の下は鎗を倒して通行せりといふ。現小松市教育課長安田作次郎氏の調査に據れば室鳩巢が此櫻を見て次の詠詩をなせりと。

遊松月寺看櫻花

室鳩巢

古寺尋春々已殘 日櫻開盡倚闌干 珠林當畫雲長生 香閣引風雪不寒
樹下人誇冠玉美 佛前僧作雨花看 晚來遊客未歸去 猶有夕陽照繡鞍

(昭和十七年四月二十八日調査)

後記 松月寺の大櫻は昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

(1) *Prunus mutabilis* MIYOSHI var. *magnifica* NAKAI, var. nov.

Folia glabra primo erubescencia sed expansa mox viridescencia latissime obovata, subduplicato-spires-centi-serrata, subtus plus minus glaucescentia, apice mucronato-acuminata, basi subcordata vel rotundata. Pedunculi et pedicelli glaberrimi. Cupula glabra, sepalis reflexis elongato-deltaidea serrulata. Flores 5—5.5 cm lata magifica. Petala alba parce carnea. Stamina circ. 40, antheris rotundatis ochroleucis. Stylis

stamina sperantes glaberrimi.

Nom. Jap. *Syogetzakura.*

Habitat in area templi Syogetzuzi. In anno 1648 haec planta hic plantata esse dicitur.

神明のケヤキ

所在 石川縣金澤市野町一丁目、縣社泉野神社境内

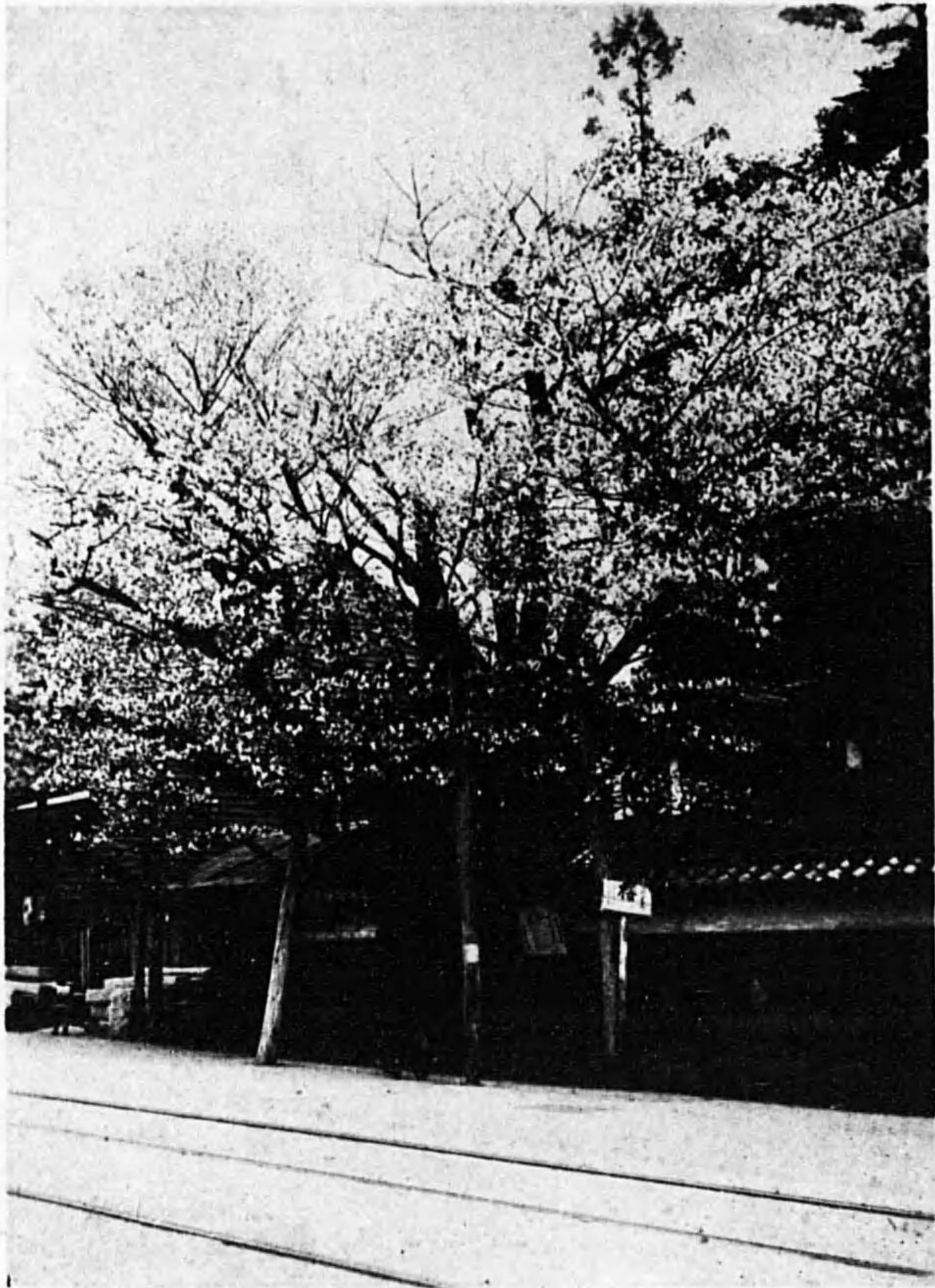
泉野神社の社殿は東に向つて建ち、此ケヤキ *Zakozu serrata* (HUNBERG) MAKINO は其斜右前にありて花崗岩の玉垣にて嚴重に圍るあり。樹勢旺盛にして高さ二〇米、根廻一・二米、地上二・二五米の幹圍七・二米、枝張は東へ一五米、西へ一四米、南へ八・六米、北へ一四七米あり。推定樹齡四五〇年にしてケヤキの地方的巨樹の一なり。

(昭和十七年四月二十八日調査)

後記 神明のケヤキは昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

岩根社の大ケヤキ

第十一圖版



満開の松月櫻

Prunus mutabilis var. *magnifica* in full bloom.

第十三圖版



岩根社の大ケヤキ

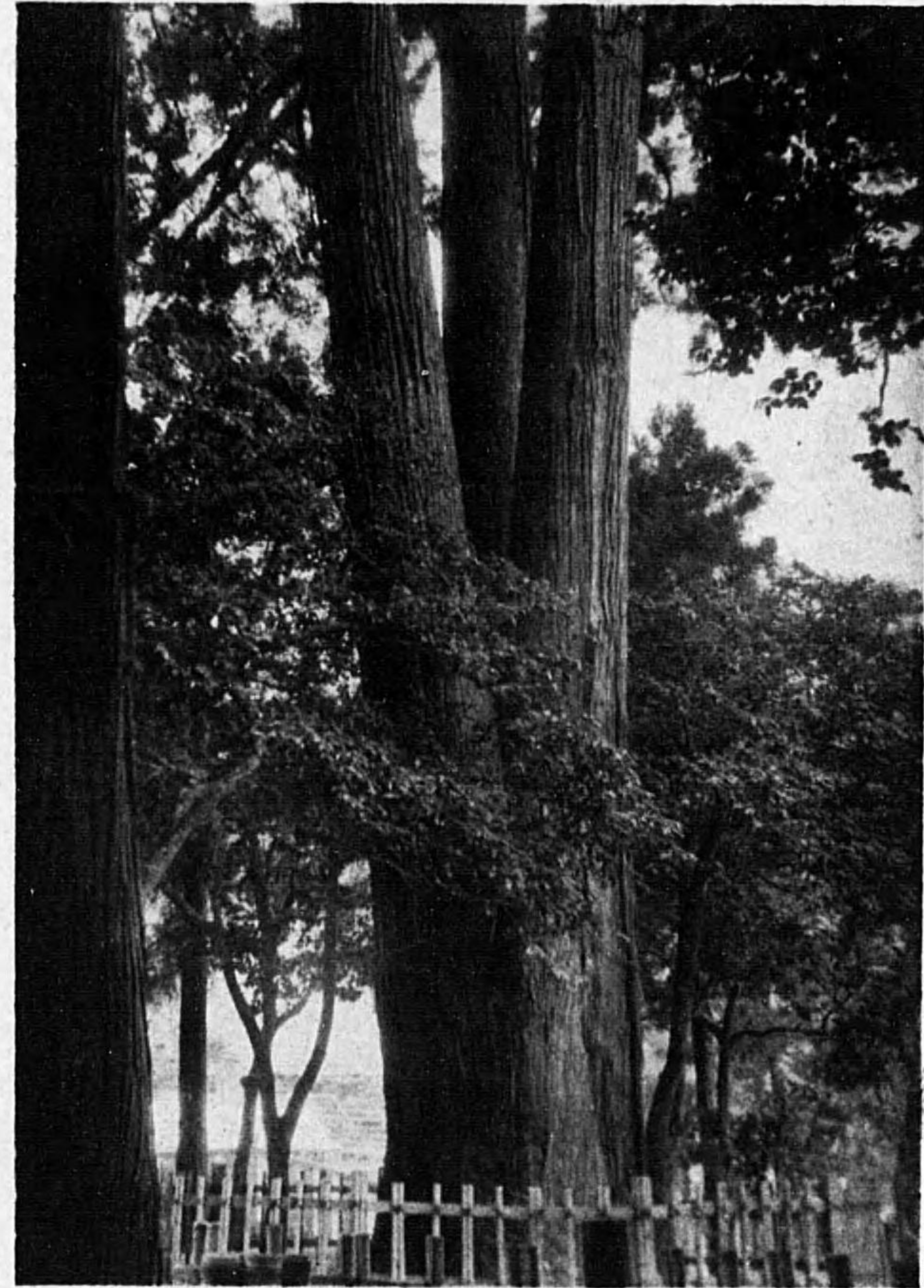
A big tree of *Zelkova serrata* in the precinct of Iwane shrine,
Isikawa prefecture.

第十二圖版



神明のケヤキ

A big tree of *Zelkova serrata* in the precinct of Izumino shrine,
Isikawa prefecture.



八幡神社の大スギ

A big tree of *Cryptomeria japonica* in the precinct of Hatiman shrine, Isikawa prefecture.

所在 石川縣能美郡白峯村字白峯、無格社岩根社境内

岩根社は白峯(俗稱牛首)の部落より約八町程南方の縣道白山登山道路の傍にあり。養老元年白山を開ける泰澄大師の開基なりといふ。社は礫岩の岩塊上に建ち、問題のケヤキは社に向つて左側の岩面を被ふて根を張り、其上に二本の本幹あり。前方にある本幹は既に枯死し、僅に岩を被ふ根より發生せる直徑五〇釐許の新幹が高さ一五米許に生育し、舊幹より下せる三本の根は岩面を被ひて幅三四米に達す。後方にある一本の本幹は尙ほ生存し居れども枝の太きもの中二本は既に枯れ、他は高さ約二〇米あり、本幹は根元より高さ一五米の所の周圍七八米あり。下に五本の根が岩面に並び相接して之を被ひ、全幅七・二七米ありて奇觀を呈す。ケヤキの地方的巨樹なるのみならず、根が岩面を被ふて幅七米餘となるは比類稀なるものとす。

(昭和十七年四月二十九日調査)

後記 岩根社の大ケヤキは昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

八幡神社の大スギ

所在 石川縣江沼郡西谷村字菅谷、村社八幡神社境内

有名なる山中温泉より川に沿ふて上る事三十町餘にて川の右岸小高き所に國民學校と並

石川縣 八幡神社の大スギ



犬ノ澤の金明竹

Sinoarundinaria reticulata var. *castilloni-inversa* at Inunosawa,
Isikawa prefecture.

石川縣 犬ノ澤の金明竹

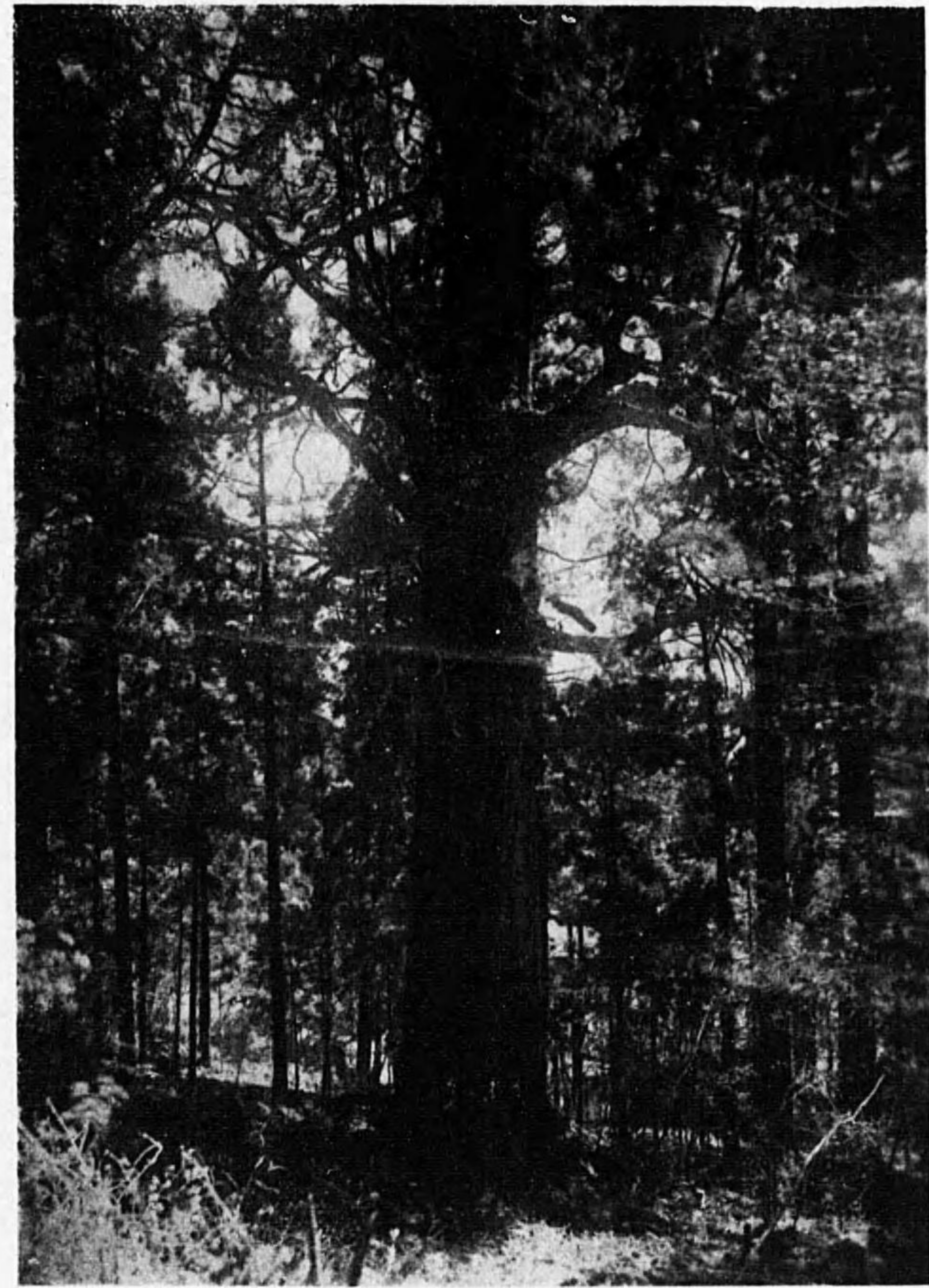
びて八幡神社あり。スギの木は拜殿に向ひ參道の右側にあり、俗に菅谷の三叉杉スガタニ ミツマサキといふ。樹高五〇米、根廻七六二米(但し深き一〇二米の盛土をなしある故眞の根廻に非ず)、地上一五米の幹圍七米あり、地上三八五米の邊にて三叉し、三本の相似たる太き齊一なる三幹となる。枝張は東へ九二五米、西へ九九米、南へ七八五米、北へ六三米あり。推定樹齡六百年、溪を隔てて既に天然紀念物に指定しある栢野カキノの大杉に對して立ち、樹齡伯仲の間にあるが如し。村の長老佐野榮吉七十三歳より聽くに此スギノキはもと一本の細き木なりしが金山に使ふ擔棒に用ゐる爲め本幹を伐りし故三叉せりとの傳説ありと、又縣の安田調査員の取調によれば此スギは眞直の幹にて帆柱に適するとして嘗て村人が伐採せんとせしに其前夜一夜にして三本に岐れたりとの傳説ありと。共に此スギノキが古來有名なる樹にて村人に尊重され來りし爲めに生れし傳説なるべし。十數年前より村にスギの保存會を設け毎年施肥して保存に力めつつあり。スギノキの地方的巨樹なるのみならず姿態よき名木といふべし。

(昭和十七年四月三十日調査)

後記 八幡神社の大杉は昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

犬ノ澤の金明竹

所在 石川縣江沼郡大聖寺町字下福田犬ノ澤、私有畑地内



大山の大スギ

A big tree of *Cryptomeria japonica* of Oyama, Gifu prefecture.

犬ノ澤は大聖寺驛下車町を通抜け國寶長流亭側を通り河に沿ふて行く事十町橋を渡り田圃道を越して向側の山麓一帯の部落をいふ。昭和三年頃山麓道に沿ふ苦竹林に偶然一本の金明竹を發生し、逐年其本數を増し現在五間四方の竹垣内にある苦竹林中に二十八本の金明竹あり。尙ほ垣を越して生ぜる金明竹五本あり。發育よく、最も太きものは直徑六—七寸あり。

金明竹發生の確實なる年は所有主すら記憶せざれども、他より移植せしに非ずして此地にて苦竹より芽變りとして發生せし點は疑ふべからず。此金明竹は既に天然紀念物として指定されある篠原宇笹原の金明竹よりも遙かに發育良好なると、冬期は色褪せて殆んど銀明竹に近き色となり、恰も金明竹と銀明竹との中間色となる學術上興味ある參考資料なり。

(昭和十七年四月三十日調査)

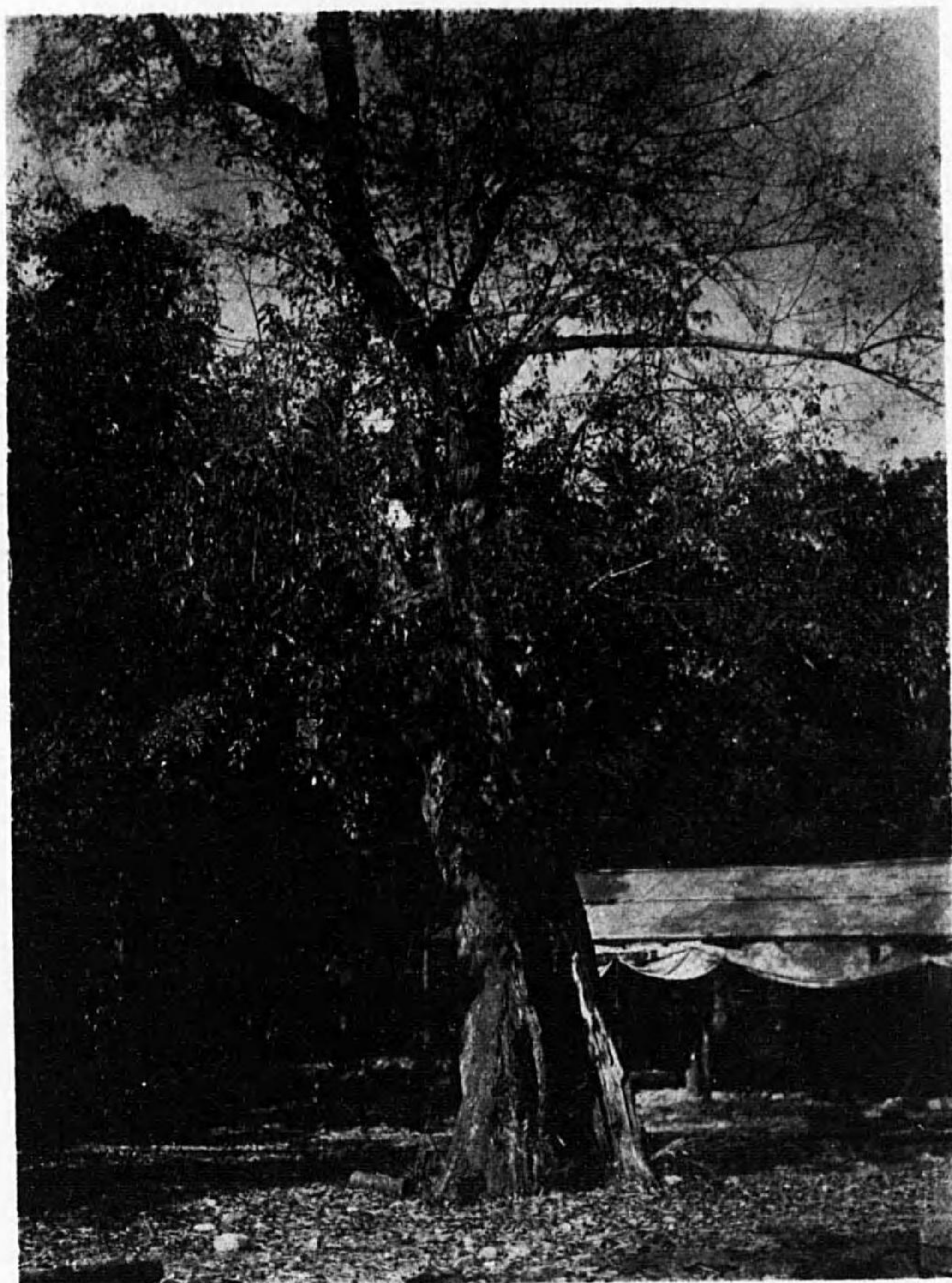
後記 犬ノ澤の金明竹は昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

岐阜縣

大山の大スギ

所在 岐阜縣加茂郡西白川村大字水戸野字大山、縣社白山神社境内

岐阜縣 大山の大スギ



白山神社のハナノキ

A big tree of *Acer rubrum* var. *fyenanthum* in the precinct of Hakusan shrine, Gifu prefecture.

岐阜縣 白山神社のハナノキ及ヒトツバタゴ並にヒトツバタゴ自生地

一八

大山は省線高山線下油井驛下車、登り道四軒強にて達し得る標高八六〇米附近の最高峯にして白山神社は其山頂近くあり。山頂の數丁歩はスギノキ(漢名柳杉)林にして大スギは拜殿の向つて右より奥ノ院に向ふ階段の中途左側約二〇米を隔てたる所にあり。樹高四五米根廻一五・一米地上・一五米の所にて幹圍九・九米あり。東南側地上約四米の所より分岐し始む。枝張は東へ九五米、西へ八・四米、南へ一〇・六米、北へ四・五米あり。推定樹齡七百年にして、スギノキの巨樹の一なり。

此スギ林には此外にもスギの巨樹あり。大スギに次ぐものは大スギより斜右下に約四〇米を隔ててあり。樹高五〇米、根廻一〇・一米、地上・一五米の幹圍七・一米、推定樹齡五百年なり。其他に目通六・五米、六・四米のもの以下百餘本の美事なるスギノキあり。大山のスギノキは心材が板としても長く赤味を失はざる故、木材商間に貴ばるとは社司島崎茂氏の談なり。

(昭和十七年五月一日調査)

後記 大山の大杉は昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

白山神社のハナノキ及ヒトツバタゴ
並にヒトツバタゴ自生地



白山神社のヒトツバタゴ

A big tree of *Chi nantlus retusa* in the precinct of Hakusan shrine, Gihu prefecture.

所在 岐阜縣土岐郡泉町大字大富字三ノ輪村社白山神社境内

白山神社の參道の右側拜殿より約一町手前にアラカシ、ツクバネガシ、ソヨゴ、ネヂキ、カキノキ、エゴノキ、カマツカ、ヤブハゼ、アカマツ、ヒノキ、スギノキ、サハフタギ、ウラジロノキ、コナラ、サカキ、クリノキ、コバノミツバツツジ、ノイバラ、スルデ等が雜然と生ずる下にネザサが繁り、木にはフデが絡み居る林の中に大なるハナノキとヒトツバタゴと各一本あり。

(一) ハナノキ

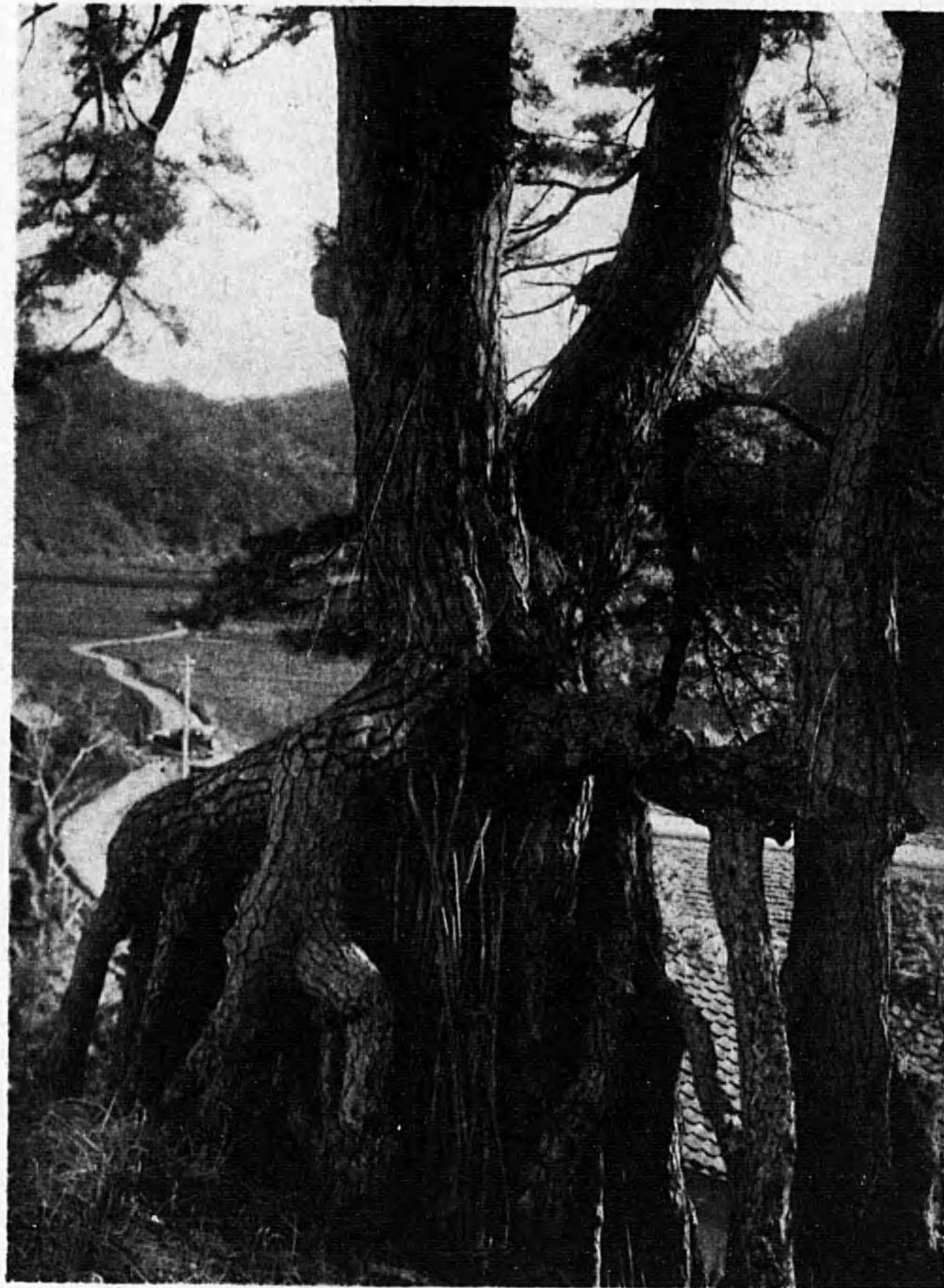
樹高一二米、幹は約六〇度の傾斜をなして北西北に傾き東南側に開けたる全くの空洞樹にして南方に繁く枝を出し、地上一五米の幹圍四二米、根廻七一五米、枝は東に二四米、西に六二米、南に三二米、北に八・一五米程展開す。皮に近き最外側の年輪より察して樹齡は約三百年のものなるが如し。

(二) ヒトツバタゴ

樹高二〇米、幹は約八〇度北へ傾き南へ地上四米邊より多數の枝を出す。根廻一・五七米、地上・一米の邊周圍一・三三米、一・五米の所は瘤ある故周圍一・五米あり。枝は東へ四・七米、西へ二・一米、南へ四米、北へ四・三米程展開し頂は枯死す。樹齡八百年より百二十年の間なるべし。

(三) ヒトツバタゴ自生地

白山神社の社殿より東へ約一町、又泉町國民學校の北約半町の所にネザサの生ふる平たき半濕地ありて、其に十三本のヒトツバタゴ自生す。住民が他の樹木類を伐採りて殊更にヒト



宇谷の連理根上リ松

The united root-stilted black pines, *Pinus Thunbergii*
at Utani, Tottori prefecture.

鳥取縣 宇谷の連理根上リ松及根上リ松群

二〇

ツバタゴのみを残せる故一見天然の状態に異る觀あり。最大のもは目通幹圍六〇厘許あり。約半數の木は花を附く。

ハナノキは本州中部の特産種にして上記の木は其最大のものなり。又ヒトツバタゴも本州にありては此地方に限り自生し、白山神社のものは其一として學術上の參考資料たり。

(昭和十七年五月二日調査)

後記 白山神社のヒトツバタゴ自生地は昭和十七年十月、白山神社のハナノキ及ヒトツバタゴは同十八年二月何れも天然紀念物として指定せられたり

鳥取縣

宇谷の連理根上リ松及根上リ松群

所在 鳥取縣東伯郡泊村大字宇谷字丁田、私有地内

省線山陰線泊驛下車、國道を西する事約十町にして右手の小高き小丘陵狀の斜面上部にあり。黒松の大木十四本と稚樹十餘本とより成る山林一段四畝五歩の一區劃をなし、其中に連理根上リ松一株と根上リ松四株とあり。宇谷の八木彌太郎外六名の所有地なり。



宇谷の根上り松群
The root silted black pine, *Pinus thunbergii* at Utau, Tottori prefecture.

(一) 連理根上り松

本樹は本山林の最東端にありて東側に大なる根上り松あり(假に之を第一號とす)。其幹の基部より出でし周圍一・六米の枝の基部と覺しきものが長さ一・七五米にて西側に立つ他の根上り黒松(假に第二號とす)の根元より高さ三・二五米の所にて水平に癒着して茲に連理根上り松を形成す。南面せる斜面に生ずる故第一號の根の露出部は南側に於て高さ五・三五米、北面に於て二・八米の高さを有す。又東西に最も幅廣く擴がり、横徑四・四米あり。其中第一號の根は露出部の基部に於て周圍一・四・二米あり。幹の基部即ち普通の樹の根廻りに當る所の周圍四・七三米、幹は其より高さ一・一米を上りて二岐し、東北のもの大きく分岐點の上に於て周圍三・三五米あり。其より更に一九米を上りて二岐し、高さ二・八米、枝張は東へ一・二米、西へは第二號の木に妨げられて殆んど枝張なく、南へ一・四米、北へ六米あり、推定樹齡三五〇年。

第二號は連理部の直上に於て周圍一九五米あり。推定樹齡一五〇年。

此連理根上り松は從來知れ居る根上り松中の最大樹たる鳥取縣米子市法城寺の連理根上り松を凌ぎ、根上り松の代表的標本と謂ふべし。

(二) 根上り松其一

連理根上り松に隣して西にあり。露出部の高さ二・七米、幹の基部の周圍二・六米、其上約四米より枝を分ち、樹高二〇米あり、推定樹齡二五〇年。

(三) 根上り松其二

鳥取縣 宇谷の連理根上り松及根上り松群

根上り松其一の北上に連理根上り松と約三角形の頂點部にあり。根上りの部の高さ四・五米、幹の基部の周圍二・四米、樹高約二〇米、推定樹齡二五〇年。

(四) 根上り松其三

根上り松其二の西方十數間を隔ててあり。根上り部の高さ四・六四米、幹の基部の周圍二・四二米、高さ約二〇米、推定樹齡二五〇年。

(五) 根上り松其四

根上り松其三の西に接してあり。根上り部の高さ二・八米、幹の基部の周圍二・四米、樹高二〇米、推定樹齡二五〇年。

以上四本の根上り松は何れも根上り松の代表的のものにして連理根上り松と共に皆名木と稱すべし。

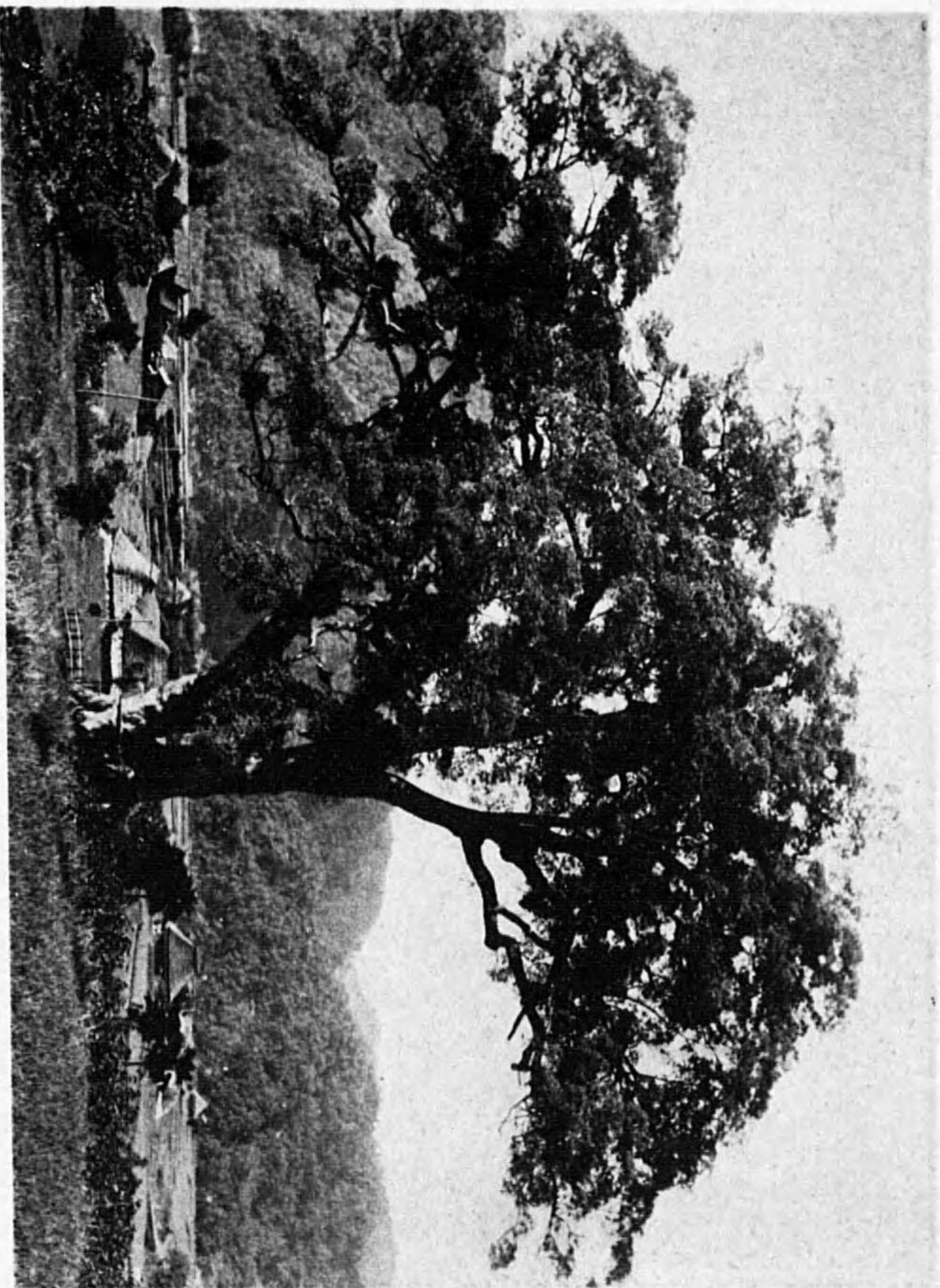
(昭和十七年九月十七日調査)

後記 宇谷の連理根上り松及根上り松は昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

島根縣

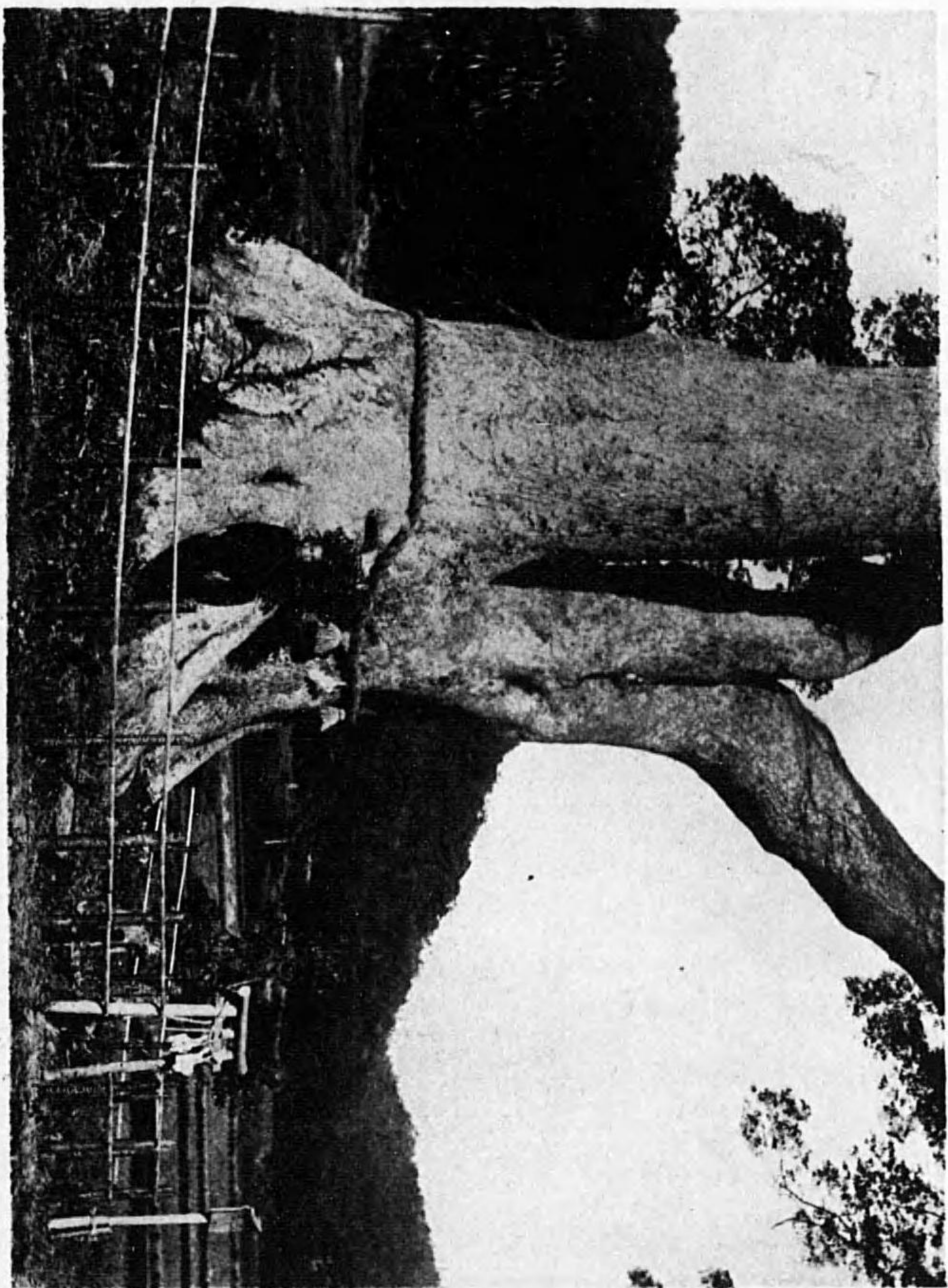
大元神社趾の樟

第二十一圖版



大元神社趾の樟(全形)

A big tree of *Pinus densata* in the precinct of Omoto shrine, Simane prefecture.



大元神社址の樟(基部)

A big tree of *Cinnamomum camphora* in the precinct of Omoto shrine, Simane prefecture.

所在 島根縣鹿足郡日原村大字池村字石楠山

此樟の所在地はもと畑村といひ、大元神社は村の鎮守なりしが、明治三十九年三月に郷社八幡宮に合併せられ、舊大元神社の境内地は八幡宮の飛地境内として残されたり。其反別は樟を中心としたる五畝二十二歩なり。

大元神社は國常立尊を祭り、始めは此樟を御神體として之に注連繩を廻らしありしが、社殿を造營したる後は此樟を除く林叢全部を伐り採れり。其年代は詳ならざるも明治二十六・七年頃なりといふ。八幡宮に合併してより本殿並に拜殿を解き、次で舞樂殿を賣却せる由なり。樟は現在畑地の中心にある飛地の開潤地に孤立す。樹高三〇米、元來東西に相接近して立てる二本の樟が成長につれ基に於て癒合したるものの如く、現在高さ二・四米迄癒合し、西側のものが東側のものを包むが如くに癒着す。此癒着の狀は北側に於て殊に著しく認め得べし。合一せる總根廻一六・六米、目通幹圍一〇・六米あり。癒合點の直上に於ては東側の幹は周圍五・六米、西側の幹は周圍六・二米あり。枝張は東へ一六・一米、西へ二六米、南へ二三・八米、北へ一八・三米なり。

本樹は二つの樹の合したるもの故、個々として見れば決して巨樹とは言ひ難けれども、現地は有名なる深雪の地にして樟樹が斯の如く生長せるは異例といふべし。且現在は合して一本の壯大なる巨樹をなす故、地方的名木として保存さるべきものと認む。昭和十四年十一月島根縣の假指定濟のものなり。

後記 大元神社趾の樺は昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

(昭和十七年九月八日調査)

竹崎の石割樺

所在 島根縣仁多郡^{トリカミ}鳥上村大字竹崎

本樹は島根、鳥取の縣界をなす船通山^{フネツツミ}の七合目邊にある小瀑布、鳥上ノ瀧に向つて左(北側)の崖上に生ず。樹高一五米、根廻五・四米、幹は目通の邊に瘤あり、又東側は腐朽して缺損す。瘤の直下、即ち根基より一米の邊の周圍五米あり。根基より二・八米の所にて幹は四本に岐れ、就中西北に出づるものが最大にして分岐點の直上の周圍三米あり。南西のもの之に次ぎ、東北と北とのものは細し。根は石割樺の名に背かず高さ六米厚さと幅と共に一・八米宛ある一個の一岩塊を押し擴げて、岩隙を斜に約六〇度の角度をなして地表に下る。其地表に現はれ居る長さ六・四米、中央部に於て幅八〇浬、上部は幅六〇浬にして更に向つて右より下れる幅四〇浬の根と相重なり幅一米の盤根をなす。

樹は敢て巨樹とは言ひ難けれども、山上の岩隙にありて生長には極めて不利なる故、大凡三百年以上を経たるものと推定せらる。一種の奇態をなす地方的の一名木といふべし。

本樹は昭和九年二月縣に於て天然紀念物として假指定濟なり。

第二十三圖版



竹崎の石割樺

Stone breacking keaki tree, *Zelkova serrata* at Takezaki, simane prefecture.



竹崎のカツラ

Cercidiphyllum japonicum at Takezaki, Simane prefecture.

(昭和十七年九月十四日調査)

後記 竹崎の石割樺は昭和十八年八月天然記念物として指定せられたり。

竹崎のカツラ

所在 島根縣仁多郡鳥上村大字竹崎字大平山^{オホヒラ}山林内

本樹は簸ノ川の上流の溪谷にある岩^{イハ}伏冷泉といふ鑛泉宿に對する右岸の斜面にありて、一大樹叢をなす。昔は獨立の大木なりしが如けれども、今は大小無數の萌枝の群にして其中内側にある最大ものは外側の小萌枝との接觸面上に於ても周圍三米あり。萌枝群の總根廻は群が斜面に斜に生ずる故周圍一五五米あり。其上縁より水平に測れば一五米あり、樹高三二米。

此地方一帯は有名なる良質の砂鏡の産地にして、古來鏡の精鍊の爲め四近の林木は概ね木炭に焼かれ、大木の残るものなけれども、此カツラのみは御神木として保存され、今は村長堀江理之助氏の所有山林地内にあり。カツラの地方的名木といふべし。

本樹は昭和九年二月縣に於て天然記念物として假指定濟なり。

(昭和十七年九月十四日調査)

後記 竹崎のカツラは昭和十八年八月天然記念物として指定せられたり。

島根縣 竹崎のカツラ

稻田神社御旅所の竹

所在 島根縣仁多郡横田町

稻田神社は省線出雲横田驛より約十町を東に隔てる山の手にあり。素戔嗚尊の妃稻田姫を祭れる無格社にして、横田出身の鑛山成功者小林徳太郎なる人が稻田姫の出生地と傳ふる土地に近き此地をトシ、敷地と幅四間長さ約十町の參道とを購ひ、宏壯なる本殿、拜殿、神輿、舞樂殿、社務所、大鳥居、神橋等大凡神社に必要な一切の物件を完成し、我國史に稻田姫の存在を國民に明示し、敬神の念を鼓吹せんとする美舉の生みし結晶なりといふ。神社より横田驛に向ひて約二町、參道の右側に御旅所あり、神輿渡御の際の御休憩所なり。此直前に古來稻田姫の臍の緒を切る筥を作りたる竹なりと傳ふる小さき竹叢あり。土地の者は之を女竹といへども、實はヤダケ *Pseudosasa japonica* MAKINO にして日本書紀に篠小竹也此云斯奴とあるもの即ち是なり。今此をメダケと呼ぶは稻田姫に關係ある爲めなるべし。而して土地の者は出産ある毎に其一枝を持歸りて安産を祈る。又素戔嗚尊が八岐大蛇を退治するに先ち八醜酒を醸して大蛇に飲ましめ其泥酔を待ちて十握劍を抜いて目出度く退治せる古事に因み、土地の酒造家は新酒を仕込むに先ち此ヤダケの一枝を酒倉に祭りて美酒醸成を祈る。此習慣は何時の頃よりか轉じて新酒成るや其印として軒先に竹を立てる事となり、其行事が次第に全國的に

に擴まれりとも傳ふ。

(昭和十七年九月十三日調査)

船通山の樹木類

船通山は島根縣仁多郡と鳥取縣日野郡との郡界にあり、標高八百餘米、四近の高山の一にして東に大山、西に三瓶山を望み、北に中ノ海、島根半島を俯瞰し、秋期天晴れば遠く隱岐島をも望見し得るといふ。山の中腹以下はマツ、スギの植林地なれども、中腹以上は牛馬の放牧に使用す。爲めに特殊の草本を除いては草本の種類極めて少し。笹類は麓にありては上房ザサ *Sasa bitchensis* MAKINO の壯大なる生育を見る所もあれども主としてサトチマキザサ *Sasa palmata* NAKAI が密生し、然らざればネザサ *Nippowolaimus argyrostriatus* var. *distichus* NAKAI があり、樹木類は山頂部にブナが混生し、アカモノが多く生ずる外は餘り特徴なく、路傍にて見得たる灌木、喬木類は次の目録に示すが如く、一千町歩に餘る山林としては樹種乏しき山なり。山頂に近く鳥取縣側に縣が假指定せる船通榎あり。但しこれはキヤラボクに非ずしてイチキ *Taxus cuspidata* SEIBOLD & ZUCCARINI なり、其中上の大なる一本は下枝が雪に壓せられて約三〇米も伸長し、本幹を見ぬ時はダイセンキヤラボク *Taxus fruticosa* NAKAI に酷似する故キヤラボクと混同せしものなるべし。

船通山登山道路(島根縣側)に沿つて
生ずる木本植物目録

- | | | | |
|------------------------------------------------------|---------|----------------------------------------------------------|--------|
| 1. <i>Taxus cuspidata</i> SIEBOLD & ZUCCARINI | イチキ | 12. <i>Carpinus Tschonoskii</i> MAXIMOWICZ | イヌシデ |
| 2. <i>Torreya fruticosa</i> NAKAI | チヤボガヤ | 13. <i>Corylus Sieboldiana</i> BLUME | ツノハシバミ |
| 3. <i>Cephalotaxus nana</i> NAKAI | ハヒイヌガヤ | 14. <i>Castanea crenata</i> SIEBOLD & ZUCCARINI | クリ |
| 4. <i>Pinus densiflora</i> SIEBOLD & ZUCCARINI | アカ | 15. <i>Fagus crenata</i> BLUME | ブナノキ |
| 5. <i>Salix daisei</i> O. SEMMEN | ダイセンヤナギ | 16. <i>Quercus crispula</i> BLUME | ミヅナラ |
| 6. <i>Salix gracilistyla</i> MIGUEL | ネコヤナギ | 17. <i>Quercus serrata</i> THUNBERG | コナラ |
| 7. <i>Juglans Sieboldiana</i> MAXIMOWICZ | オニグルミ | 18. <i>Ulmus Deridiana</i> PLANCHON var. <i>japonica</i> | NAKAI |
| 8. <i>Pterophalloides straboceri</i> REID & CHANDLER | ノグルミ | 19. <i>Zelkova serrata</i> MAKINO | クヤキ |
| 9. <i>Pterocarya rhoifolia</i> SIEBOLD & ZUCCARINI | サ | 20. <i>Broussonetia Kazinoki</i> SIEBOLD | カウゾ |
| 10. <i>Carpinus carpinoides</i> SIEBOLD & ZUCCARINI | ク | 21. <i>Morus bombycis</i> KOIDZUMI | ヤマザハ |
| 11. <i>Carpinus latiflora</i> BLUME | アカシデ | 22. <i>Cercitiphyllum japonicum</i> SIEBOLD & ZUCCARINI | カツラ |
| | | 23. <i>Akebia quinata</i> DECAISNE | アケビ |

- | | | | |
|-----------------------------------------------------------------|---------|----------------------------------------------|---------|
| 24. <i>Cocculus trilobus</i> DC. | アヲツツラアチ | 39. <i>Sorbus japonica</i> KOCH | ウラジロノキ |
| 25. <i>Magnolia obovata</i> THUNBERG | ホホノキ | 40. <i>Sorbus Wightii</i> KOEHNE | ツツアチアカチ |
| 26. <i>Magnolia salicifolia</i> MAXIMOWICZ | タムシバ | 41. <i>Rosa polyantha</i> S. & Z. | ノイバラ |
| 27. <i>Schisandra nigra</i> MAXIMOWICZ | アツアチ | 42. <i>Rubus coptophyllus</i> A. GRAY | モミヂイチヂ |
| 28. <i>Benzoin umbellatum</i> O. KUNTZE | クロモジ | 43. <i>Rubus phoenicolasius</i> MAXIMOWICZ | エビガシ |
| 29. <i>Parabenzoin praecox</i> NAKAI | アツアチヤソ | 44. <i>Rubus Wriglii</i> A. GRAY | クマイチヂ |
| 30. <i>Dentzia crenata</i> S. & Z. f. <i>angustifolia</i> REGEL | ウツギ | 45. <i>Prunus mutabilis</i> MIYOSHI | ヤマザクラ |
| 31. <i>Dentzia gracilis</i> S. & Z. | ヒメウツギ | 46. <i>Maclea floribunda</i> TAKEDA | ハネミイヌセン |
| 32. <i>Hydrangea serrata</i> SERINGE | サハアチサキ | 47. <i>Paeonia Thunbergiana</i> BENTHAM | クズ |
| 33. <i>Ribes fasciculatum</i> S. & Z. | ヤマザソバシ | 48. <i>Wistaria brachybotrys</i> S. & Z. | ヤマアチヂ |
| 34. <i>Schizophragma hydrangoides</i> S. & Z. | イハガ | 49. <i>Wistaria floribunda</i> DC. | アチヂ |
| 35. <i>Hammamelis japonica</i> S. & Z. | アソウサク | 50. <i>Fagaria mantchurica</i> HONDA | イヌザソセウ |
| 36. <i>Amelanchier asiatica</i> ENDLICHER | ザイアフリボク | 51. <i>Zanthoxylum piperitum</i> DC. | サソセウ |
| 37. <i>Mahus Sieboldii</i> REGEL | ズミノキ | 52. <i>Daphniphyllum macrobotanum</i> MIGUEL | エヅリハ |
| 38. <i>Pourthiaca villosa</i> DECAISNE | クマアツカ | 53. <i>Rhus ambigua</i> LAVALLÉE | ツヌウルシ |

- 54. *Rhus javanica* L. フシノキ
- 55. *Rhus trichocarpa* MIQUEL ヤマウルシ
- 56. *Ilex crenata* THUNBERG var. *microphylla* MAXIMOWICZ ヌズノイヌツグ
- 57. *Ilex pedunculata* MIQUEL ヲヨヅ
- 58. *Ilex Sageroi* MAXIMOWICZ アカミノイヌツグ
- 59. *Clastus orbiculatus* THUNBERG ツルウスマモトキ
- 60. *Enonymus alatus* SIEBOLD ニシキギ
- 61. *Enonymus alatus* SIEBOLD var. *subtlyflorus* FR. & SAR. コトユミ
- 62. *Enonymus oxyphyllus* MIQUEL ツリバナ
- 63. *Acer formosum* CARRIERE アロハカヘデ
- 64. *Acer japonicum* THUNBERG メイザツカヘデ
- 65. *Acer mono* MAXIMOWICZ イタヤカヘデ
- 66. *Acer rufigerum* SIEBOLD & ZUCCARINI ヲリハダカヘデ
- 67. *Acer Sieboldianum* MIQUEL var. *microphyllum* NAKAI ヒメハツチハカヘデ
- 68. *Meliosma myriantha* S. & Z. アハツギ
- 69. *Meliosma tenuis* MAXIMOWICZ ミヤマハハツ
- 70. *Vitis Kamuyeri* KOCH ヤマアザビツ
- 71. *Actinidia polygama* PLANCHON アタタビ
- 72. *Eurya japonica* THUNBERG ヒサカキ
- 73. *Sarcocolla pseudocamellia* MATSUMURA ナツツバキ
- 74. *Stachyurus praecox* S. & Z. キヲヂ
- 75. *Elaeagnus crispa* THUNBERG アキグミ
- 76. *Aralia elata* SEEMANN タラノキ
- 77. *Cornus brachypoda* C. A. MEYER クマノミヅキ
- 78. *Cornus controversa* HEMSLEY ミヅキ
- 79. *Corylon japonica* NAKAI ヤマホウシ
- 80. *Halevingia japonica* WILDDENOW ハナイカダ

- 81. *Clethra barbinervis* S. & Z. リヨウツグ
- 82. *Akanonoa⁽¹⁾ adnobilis* NAKAI, gen. nov. (*Gaultheria adnobilis* MAXIMOWICZ) アカモノ
- 83. *Higertia japonica* NAKAI アケシス
- 84. *Pieris japonica* D. DON アセビ
- 85. *Rhododendron japonicum* SURINGAR var. *glau-cophyllum* NAKAI ヲラジロレンヂツツジ
- 86. *Rhododendron Kamuyeri* PLANCHON ヤマツツジ
- 87. *Rhododendron mutifus* NAKAI サイコクミツバツツジ
- 88. *Tripetelia paniculata* S. & Z. ホツツジ
- 89. *Vaccinium Oldhami* MIQUEL ナツハゼ
- 90. *Vaccinium Smalii* A. GRAY オホバズノキ
- 91. *Blattia japonica* THUNBERG ヤブカウジ
- 92. *Pahora pilosa* NAKAI サハフタダギ
- 93. *Syrax japonica* S. & Z. ヌヅノキ
- 94. *Syrax Obassia* S. & Z. ハクウソボク
- 95. *Fraxinus Sieboldiana* BLUME var. *angustifolia* BLUME コバノトネリコ
- 96. *Ligustrum citatum* SIEBOLD サイコクイボク
- 97. *Abelia serrata* S. & Z. var. *bucklandii* MAXIMOWICZ キバツツクバネウツギ
- 98. *Abelia spatulata* S. & Z. ツクバネウツギ
- 99. *Sambucus Sieboldiana* BLUME ニハトコ
- 100. *Viburnum dilatatum* THUNBERG ガマズミ
- 101. *Viburnum furecatum* BLUME ムシカリ
- 102. *Viburnum crossum* THUNBERG var. *punctatum* FRANCIET & SAVATIER コバノガマズミ
- 103. *Viburnum Sieboldii* MIQUEL アマキ
- 104. *Viburnum tomentosum* THUNBERG ヤブアザビ
- 105. *Viburnum Wrightii* MIQUEL var. *minus* NAKAI コミヤマアザビ
- 106. *Wigelia hortensis* C. A. MEYER タニウツギ

(1) *Akamonoa* NAKAI, gen. nov.

Affinis gen. *Gambleria*, exqua pedunculis axillari-elongatis multibracteatis unifloribus, antheris inappendiculatis. Ex *Diphylosia*, quacum ego commixti caule repente non densifoliato, pedunculis elongateis multibracteatis etc. bene dignoscenda.

サンバガタの松

所在 島根縣八東郡美保關町宇泊リ小路

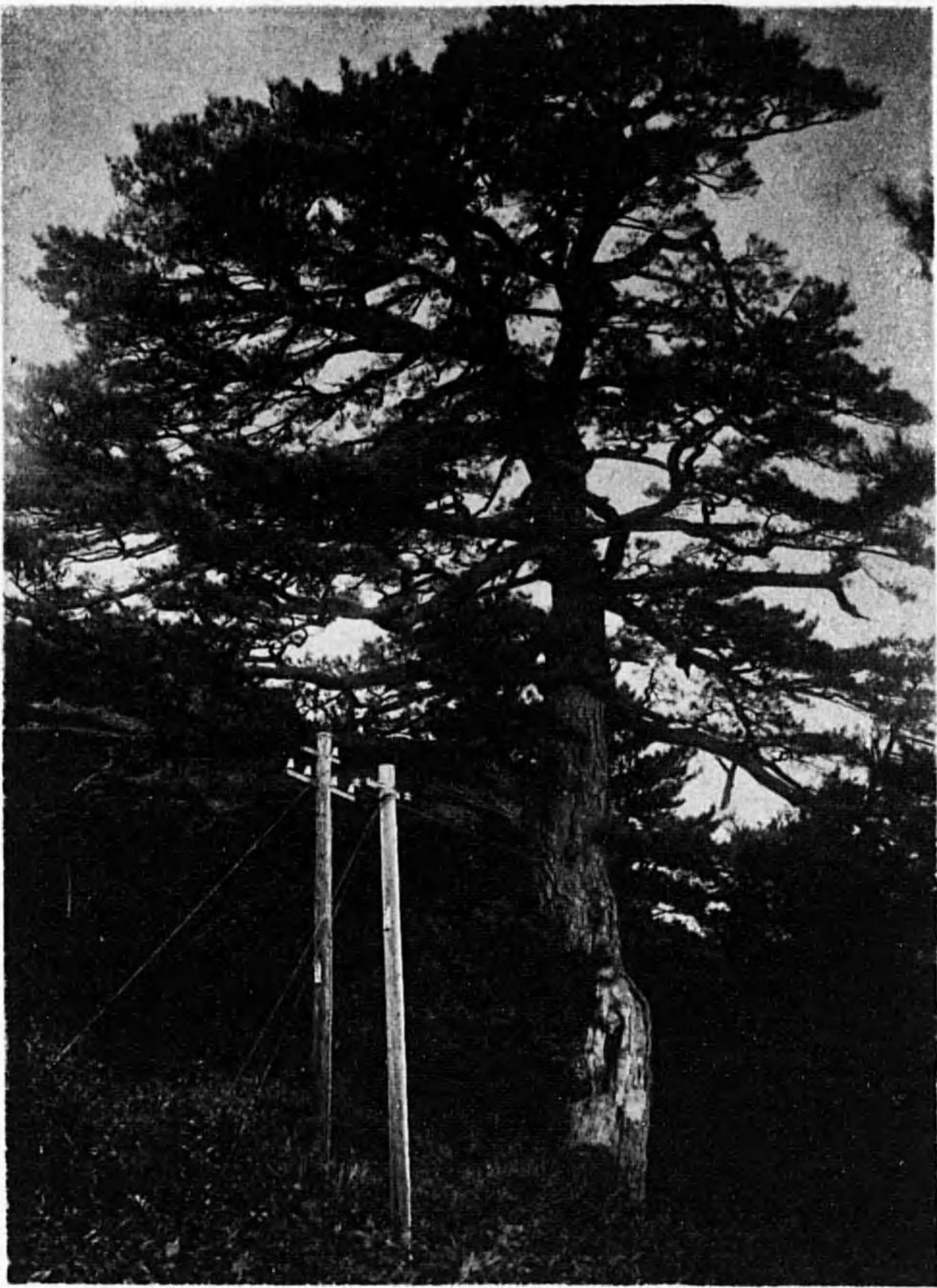
國幣中社美保神社に向ひて左側の山の中腹に俗稱サンバガタといふ小さき臺地様の所あり。古來地方人は毎春此所に兒童を集めて食事を共にし、合戦の眞似事をなさしむる習慣あり。臺地の端に一本の黒松の大樹あり、之をサンバガタの松といひ、美保關全山第一の巨樹なり。樹高約四五米、根廻七五五米、目通幹圍五五米、枝張は東へ一二・八米、南へ一四・八米、西と北とは樹林と崖とに妨げられて測り得ず、根基より二米を上りたる邊より最初の枝を出す。推定樹齡四百年、黒松の地方的巨樹なり。

(昭和十七年九月十六日調査)

後記

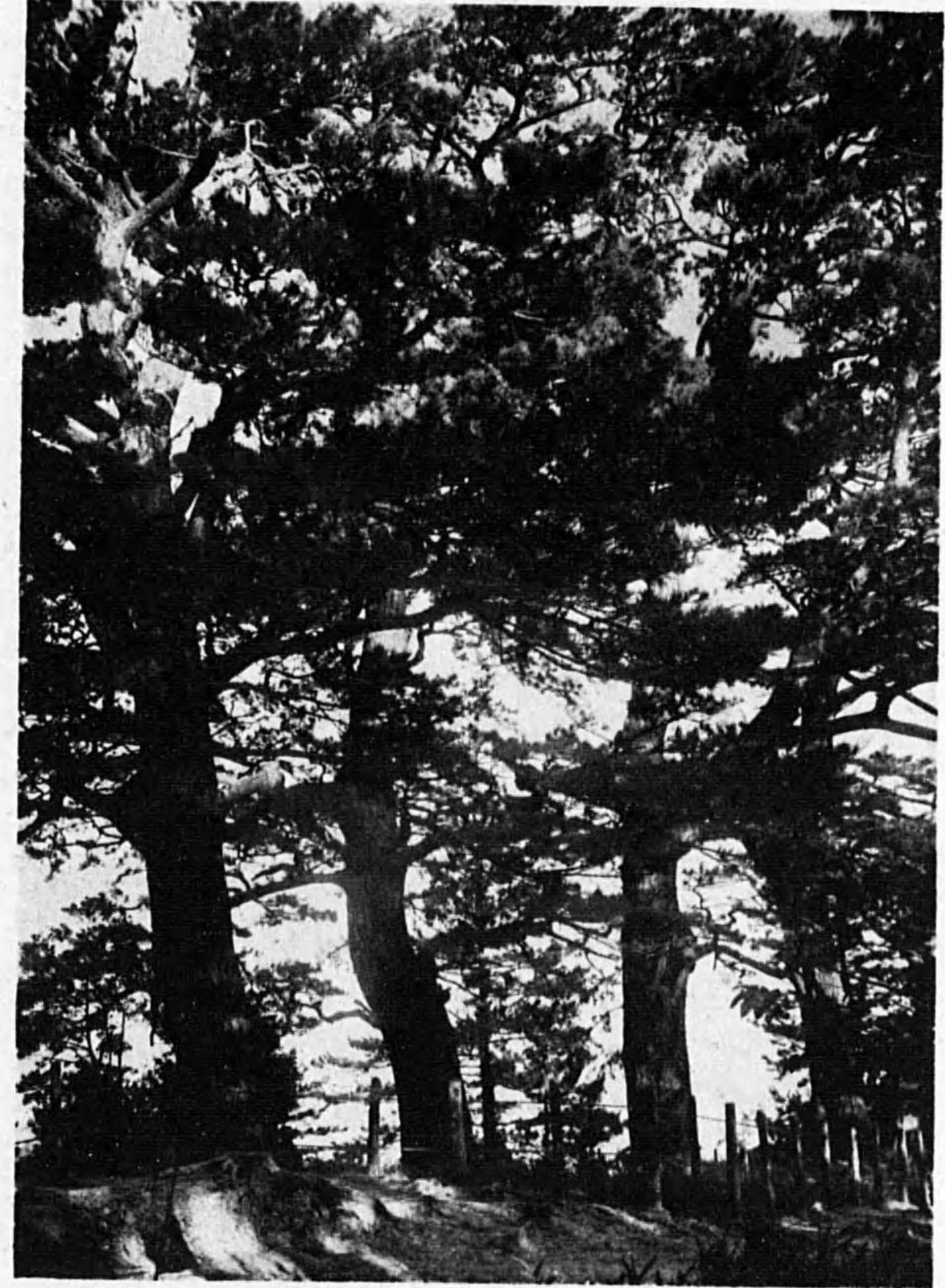
サンバガタの松は昭和十八年八月天然念物として指定せられたり。

第二十五圖版



サンバガタの松

A big tree of *Pinus Thunbergii* at Sanbagata, Simane prefecture.



關の五本松

Pinus Thunbergii at Seki, Simane prefecture.

關の五本松

所在 島根縣八束郡美保關町字五本松、泊リ小路

關の五本松一本伐りや四本、あとは伐られぬ夫婦松

逢ふて嬉しや顔美保の關、早くなりたや夫婦松

などの民謡に名高い關の五本松は美保關町の五本松公園にあり、古く關所のありし所にして外海(日本海)に向つて通路より左に二本、右に三本ありし松の中左方の道に接近せる一本が早く枯死し爾來四本松となる。四本は山の稜線に沿ひて西北より東南に並び通路の左即ち西北端のものが最も大なり。之を假に第一號とし、其より順次右へ(公園側より登れば先へ)第二、第三、第四號とす。樹齡は同一なるべく約三百五十年と推定さる。

第一號の松

樹高二五米、根廻一四米、目通幹圍四・三米、枝は北に出でず、皆南に向ひ一三米に達す、東北側に約二〇年前落雷ありて火を發し、消火に力めしも水利悪しき爲め遂に半面を燒失せしも尙ほ樹勢旺盛なり。

第二號の松

樹高三〇米、根廻八・七米、目通幹圍三五米、枝は南へのみ向ひて一三米程展開す。

第三號の松

樹高三〇米、根廻七・五米、目通幹圍三・七米、枝は北へ一・四三米、西へ八・六米程展開す。

第四號の松

樹高三〇米、根廻八・三米、目通幹圍三・七五米、枝は西へ一・一六米、北へ一・二六米程展開す。

以上の四本松は相並びて姿よき一群をなし古來關の五本松として由緒ある松なれば天然紀念物として保存の要あるべし。

(昭和十七年九月十六日調査)

後記 關の五本松は昭和十八年八月天然紀念物として指定せられたり。

松江城山のクロガネモチ

昭和十七年二月松江市長より文部大臣宛松江舊城内にある天然紀念物クロガネモチが著しく衰弱せるにつき調査委員派遣方申請ありたるにより島根縣下の天然紀念物調査の途次松江市に立寄り、九月十五日現木につき詳細に點檢し大要次の如き注意を市當局に與へ置けり。

一、クロガネモチの坂の上に當る幹の半面は既に枯死し居り、其根基に多量の濕土が寄せられありて幹の腐朽を助長する懼あり。故に速に此濕土を除去し、水捌を良くする事。

一、年々の施肥は其量と濃度とが多きに過ぐる故、施肥の度数を減じ、なるべく稀薄なるものを乾燥期に水代りに注ぐ事。

一、幹は坂上半面が枯れ居る故、其方面に根張りなき筈なり。故に年々行ひ來れる坂上の施肥を廢止する事。

一、幹の腐朽部が擴大し居る故、恰も人體の如く思ひ切りて其腐朽部を銳利なる消毒せる刀物にて削り取り、其傷口に新鮮なる粘土を塗りて其自然癒着をなさしむる事、並に露出せる木質部にはクレオソート又はタールを塗りて消毒する事。

一、幹の上部にある枝枯の爲めに生ぜる多數の孔よりは雨水が流入して幹の木質部を腐らしむる故、之を防ぐ爲めに(イ)上下の孔は口へ蓋様にセメントの蓋をなす事。(ロ)横向の孔はなるべく口より少し奥に栓狀にセメントを詰め、周圍より皮が自然に癒着して口を塞ぎ得る様なす事。

一、馬糞其他の施肥は年一回に止め、且餘りに多くの穴を掘りて施肥するは徒に根を傷くる因をなす故、注意する事。

一、隣接せる樟樹は防風の用をなす故、現状の儘に放置し、其枝が伸長して他日クロガネモチを被ふ様の事あらば其部分のみを切り採る事。

(以上)

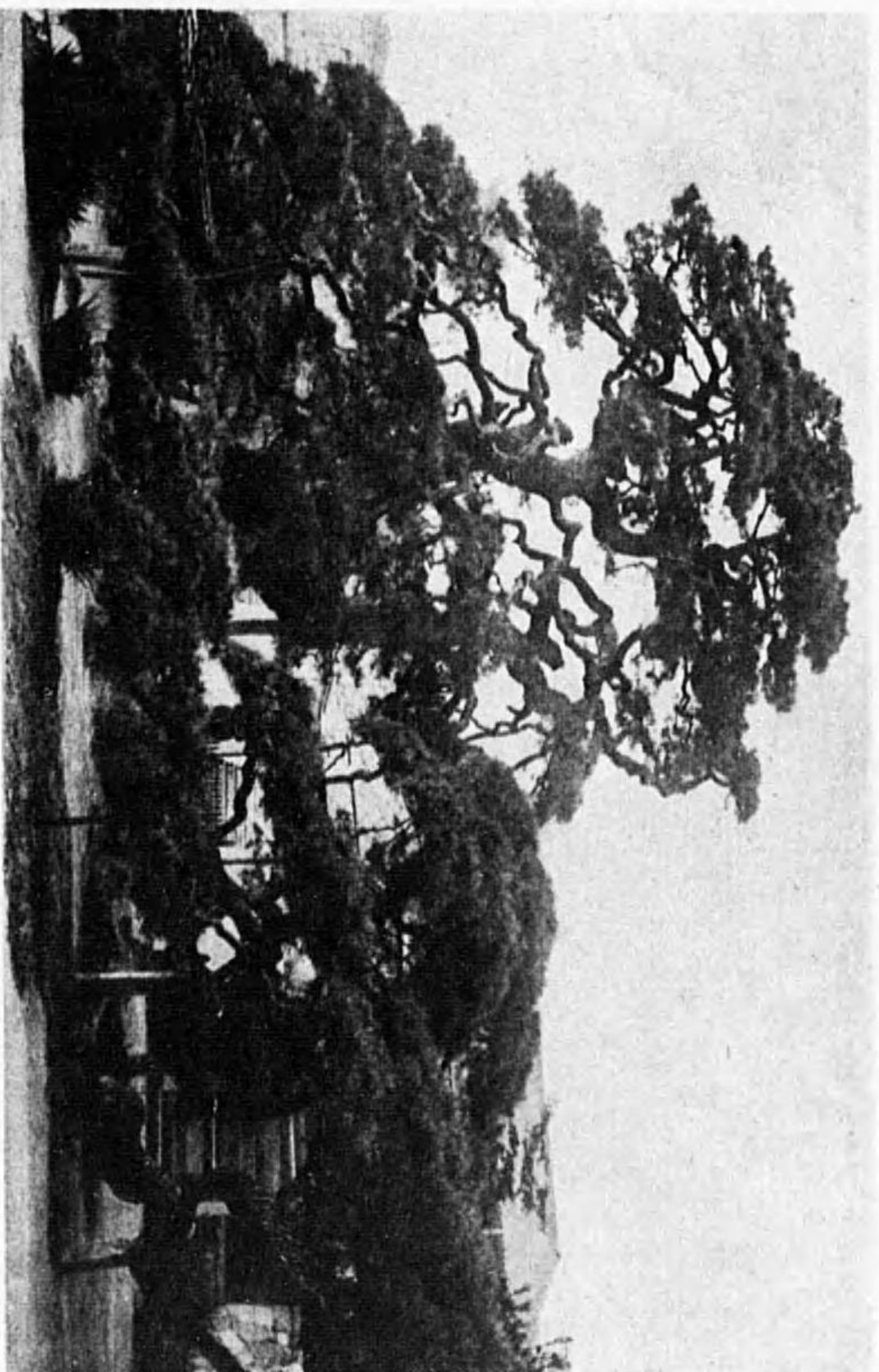
廣島縣

小松寺の松

所在 廣島縣沼隈郡^{ヌクマ}鞆町^{トモ}大字後地字草谷、小松寺境内

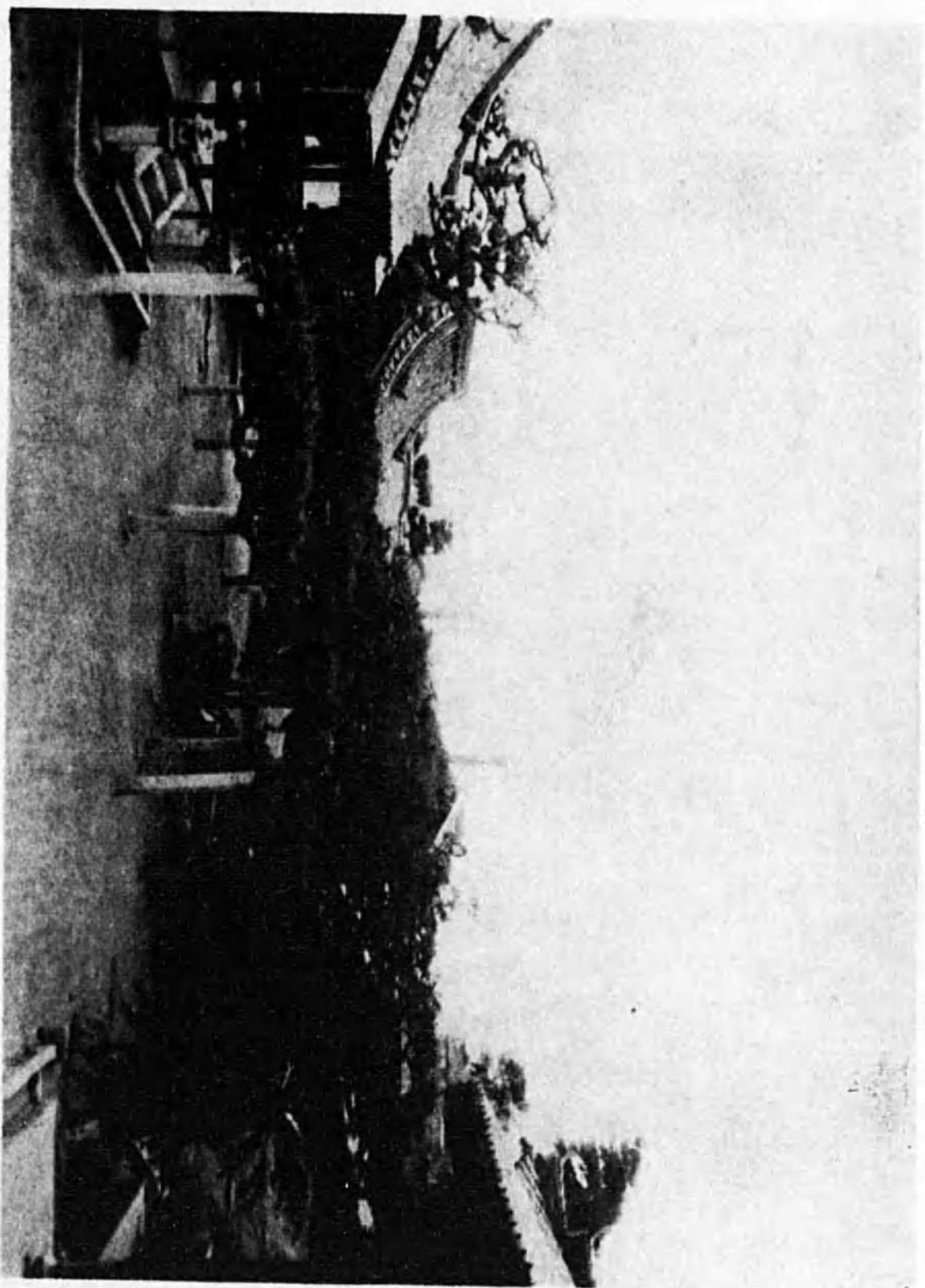
韓使季邦彦が日東第一形勝と讚してより瀬戸内海中隨一の名勝地として知らるる鞆の浦(今の鞆町)の西隅にある沼名^{ヌナ}前神社に向つて左に小松寺^{コマツノテラ}俗にコマツデラといふといふ臨濟宗の古刹あり。住職坂野慧麟氏並に昭和三年同氏の書きし由緒記を綜合するに此等は 平城天皇の大同元年(皇紀一四六六年)傳教大師の創建にして、正覺山靜觀寺と稱せり。高倉天皇の安元元年(皇紀一八三五年)の春、小松内府平重盛が嚴島へ來詣の途次舟を鞆の浦に着けて靜觀寺に來詣せるが、寺が餘りに破損せる故之を修復し更に側に一字を建て之に自作護身の阿彌陀佛を安置して万年山小松寺と名づけ紀念の爲め手づから植へし松が今日の小松寺の松なりと傳ふ。約二百年前迄は天臺宗なりしを臨濟宗に改め小松寺を本寺とし靜觀寺を副寺とせり。其後靜觀寺は小松寺の東即ち現在地に移りて天臺宗を奉じ開山を傳教大師とせる故小松寺は現在の小寺として残されたり。松の側に立つ五輪塔婆は重盛が經文を埋めし所ともいひ、又 安徳天皇の壽永二年(皇紀一八四三年)に重盛の二男資盛が重盛の遺髪を埋めし所

第二十七圖版



小松寺の松

An old specimen of an hybridized form between *Pinus Thunbergii* and *Pinus densata*, growing in the foreground of Syōsōji temple at Tomo, Hiroshima prefecture.



法宣寺の天蓋松

"Tengaimatsu", *Pinus Thunbergii* in the precinct of Hosanzai temple, Hiroshima prefecture.

とも傳ふ。平氏没落後寺は次第に廢頽せしも大永年間に安國寺六世の住職曇叟華禪師伽藍を建立し本堂の如きは十八間四方もあり現在南側にある小學校の敷地は其境内なりきと。

此松は俗に間黒アヒツロといふものの一型にして黒松と赤松との間種にて黒松の性質をより多く有するものなり。本堂に向つて左前方即ち庫裡の正面にあり。根廻七米地表近く東西に分岐し西方のものは全く枯れて大に樹態を損せり。東方のものは地上二・二米即ち枯死せる西の枝との分岐點の直上にて周圍三・二米あり。地上二・九二米の所にて二岐し、一は南へ一は東に向ふ南の枝は西の枝同様既に枯死せり。東の枝は立ち樹高七・五米、最もよく東へ枝を延し長さ五・六米あり。又東北へも長さ五米の枝を出し枯れたる南の枝との分岐點の上にて周圍二・二米あり。昭和三年末だ枝の枯死せざりし頃は寫眞の如き姿態よき樹なりしも白蟻發生して次第に衰弱せる故徹底的に白蟻を驅除して漸く現状を保つを得たり。樹は一見七百年以上を経居るものと覺しく、此儘に放置するには餘りにも惜しき名木なり。

(昭和十七年九月十一日調査)

法宣寺の天蓋松

所在 廣島縣沼隈郡鞆町大字後地字草谷法宣寺境内

後村上天皇の正平十三年(皇紀二〇一八年)日蓮宗の大覺大僧正が法宣寺を鞆に開き手づか

廣島縣 法宣寺の天蓋松

庭前に松を植えしものが成長して今の天蓋松となりしと傳ふ。樹は黒松にして本堂の向
 つて左隅より出でて殆んど堂の前庭を覆ひて横に展開し、樹勢極めて旺盛なり、然れども庭師
 が餘りに多く枝を切りて松の成長を阻害しつつあるは惜しむべし。樹高五米、根廻五・二米、地
 上一・六米の所より二岐し、東北に向ふ枝は基の周圍二・七六米にして枝張の長さ二・三・一八米、地
 り、東南に向ふものは基の周圍二・一四米、枝張の長さ一・二・五米あり。樹齡は小松寺の松よりも
 少けれども稀に見る名木といふべし。

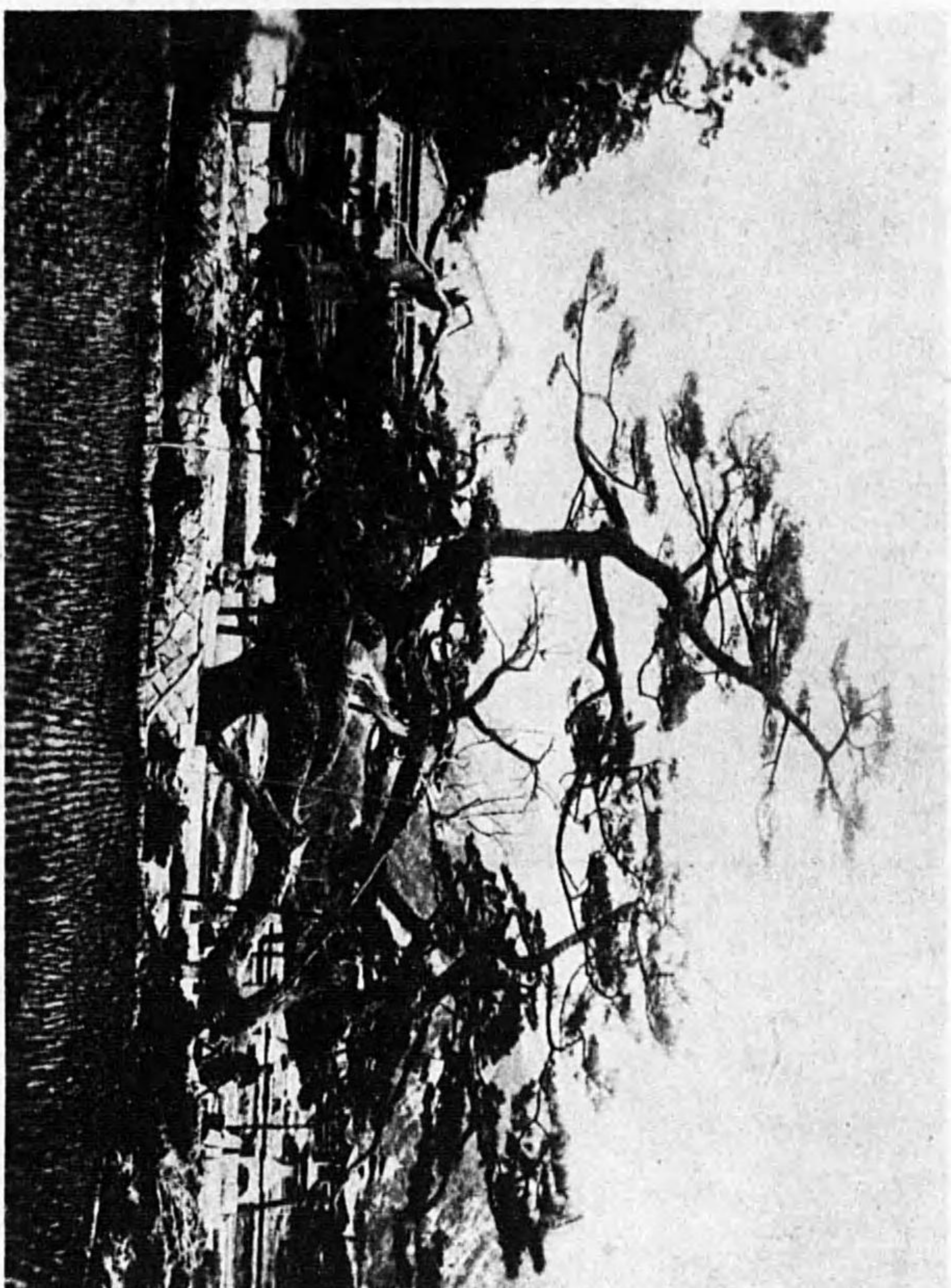
(昭和十七年九月十一日調査)

千年村の弓掛の松

所在 廣島縣沼隈郡千年村字能登原村社八幡神社境内

八幡神社は 二條天皇の平治元年皇紀一八一九年の創建なり。安徳天皇の壽永四年皇紀
 一八四五年平氏が屋島、水島の戦に破れし後、平通盛、平教經等は遁れて此地に來り八幡宮の西
 北高地に館を造りて假寓す、今も此高地を能登堂といふ、蓋し能登守教經の能登に因めるなり。
 教經の此地にあるや、每朝八幡宮に詣でて武運長久を祈りしが、其際必ず彼の所持せる強弓を
 此松樹に立て掛けし故、教經弓掛の松の名ありと傳ふ。樹は黒松にして縣道に接してあり、境
 内に入れば參道の左側にあり。枝は參道上を覆ひて屈折しながら展開し、枝は部分により著

第二十九圖 版



千年村の弓掛松

An old tree of *Pinus Thunbergii* at Sennemura, Hiroshima prefecture.



龍藏寺のイテフ

An old tree of *Ginkgo biloba* in the precinct of Ryūzōji temple, Yamaguti prefecture.

しく其太きを異にす。樹高一七米根廻四・二五米、地上・一三米の所に瘤あり、其直下にて周圍四・二米あり。地上・一九五米にて南北に二岐す。北の枝は大きく基部の周圍四・七七米幹の根廻りよりよ其より八・四米先にて更に二岐し、一は西南に反轉して枯死し、一は更に三・二米程先にて東南に反轉し、更に一米先にて二岐し、一は東へ幾度か屈曲し乍ら一五・七米程展開し、一は上に延びて後西に向ひ、九米程展がる。南の枝は基の周圍三・四六米あり、二・一米延びたる所にて南へ著しく屈曲し、更に一・四米程延びたる所にて二岐し、一は南南東即ち社前に九・八米程展がり一は南西に向へども既に枯死せり。本樹は其一部が既に枯死し、樹勢も亦旺盛ならざれども稀に見る老樹なるのみならず枝が幾度か異様に屈曲し珍らしき樹態をなせる名木なり。

(昭和十七年九月十一日調査)

山口縣

龍藏寺のイテフ

所在 山口縣山口市大字吉敷上瀧龍藏寺境内

此イテフ *Ginkgo biloba* L. は龍藏寺觀音堂の東側、山門に向つて參道の右側にあり。此觀音

山口縣 龍藏寺のイテフ

堂は役行者の開基と傳へ、背後の山には三段にかかる鼓ノ瀧ありて瀧ノ觀音として名あり。此イテフも役の行者の植えしものと傳ふ。三方山に圍まれよく保護され居る故、山口平原一帶に比類なき高き樹となり、秋期黃葉の時は二、三里を隔てて明瞭に望見することを得。樹高約六〇米、根元周圍九、七米、地上一、五米の幹圍六、七米、地上約七米より枝を出し各方面に約二〇米宛展開し、枝下より乳を生ぜり、推定樹齡五五〇年にして毎年多量の結實をなし、其種子より發芽せるものの中最も大なるは吉敷四ノ宮にありて合抱に餘る大木に生育しあり。

後記 龍藏寺の公孫樹は昭和十七年七月天然紀念物として指定せられたり。

昭和十八年十一月五日印刷
昭和十八年十一月十日發行

文
部
省

(石川印刷所印行)

終